

英語英文学科専門科目（平成29年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放					
英語共通基礎科目（英語コミュニケーション）			基礎英語表現Ⅰ	②	30	1	前期	北山 長貴 阿部 隆夫 横山 利夫 小林 亜希	②	プレイスマン ト・テストによ りクラス分け						
			基礎英語表現Ⅱ									②	30	1	後期	阿部 隆夫 横山 利夫 松井 真人 渡邊真由美
	20030	20031	発展英語表現Ⅰ（月曜Ⅱ限）													
	20030	20032	発展英語表現Ⅰ（月曜Ⅳ限）													
	20030	20033	発展英語表現Ⅰ（金曜Ⅳ限）													
	20040	20041	発展英語表現Ⅱ（火曜Ⅲ限）	2	30	2	後期	マニ・タワ ^o アコリ								
	20040	20042	発展英語表現Ⅱ（金曜Ⅳ限）													
			英会話Ⅰ	②	30	1	前期	マニ・タワ ^o アコリ	②							
			英会話Ⅱ									②	30	1	後期	マニ・タワ ^o アコリ
	20210		リーディングⅠ	2	30	1・2	前期	渡邊真由美								
	20220		リーディングⅡ													
	20230		リーディングⅢ													
	20240		リーディングⅣ													
	20320		ライティングⅠ	2	30	1	前期	米野 裕子								
			ライティングⅡ													
	20420		リスニングⅠ	2	30	1	後期	阿部 隆夫								
		リスニングⅡ														
20462		TOEICリスニングⅠ														
		TOEICリスニングⅡ														
20510		英文法Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人									
20520		英文法Ⅱ														
20610		時事英語	2	30	1・2	前期	渡邊真由美		外国							
英米文学科目	20710		イギリス文学史	2	30	1・2	前期	小林 亜希	○	8・9月開講	教養 教養 教養 教養 外国					
	20720		アメリカ文学史													
	20730		イギリス文学作品研究													
	20740		アメリカ文学作品研究													
	20750		英米児童文学作品研究													
	20760		英米文学講読													
			英米文学基礎演習Ⅰ	2	30	1	後期	小林 亜希								
			英米文学基礎演習Ⅱ													
20910		英米文学演習Ⅰ	4	60	2	通年	小林 亜希	○								
20920		英米文学演習Ⅱ														
英語学科目			英語学基礎演習Ⅰ	2	30	1	後期	横山 利夫		※注意1 第1学年はA群 （基礎演習）の 7科目うち1科目 を選択、第2学 年はB群（演習） の7科目のうち1 科目を選択						
			英語学基礎演習Ⅱ													
			英語学基礎演習Ⅲ													
	21110		英語学演習Ⅰ	4	60	2	通年	横山 利夫								
	21120		英語学演習Ⅱ													
	21130		英語学演習Ⅲ													
	21210		英語学入門Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人	○							
	21220		英語学入門Ⅱ													
21230		英語学入門Ⅲ														
21240		英語学講読														
ケ文化とコミュニケーション科目	21330		西洋史	2	30	1・2	前期	山崎 彰		[日]「外国史2」で読替	教養 教養 教養 教養					
	21340		日本文化論													
	21351		異文化理解	2	30	1・2	前期	マニ・タワ ^o アコリ	②							
	21370		異文化コミュニケーション													
	21320		英米文化論													
			異文化理解基礎演習													
			異文化コミュニケーション基礎演習	2	30	1	後期	阿部 隆夫								
	21390		異文化理解演習													
21391		異文化コミュニケーション演習	4	60	2	通年	阿部 隆夫	○	※注意1と同じ							
21410		卒業研究	4	2												

(注) ○数字は必修単位、}数字は選択必修単位
「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

英語英文学科専門科目（平成30年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放						
英語共通基礎科目（英語コミュニケーション）	20010	20011	基礎英語表現Ⅰ	②	30	1	前期	北山 長貴 阿部 隆夫 横山 利夫 小林 亜希	②	プレイスメント・テストによりクラス分け							
	20010	20012	〃														
	20010	20013	〃														
	20010	20014	〃														
	20020	20021	基礎英語表現Ⅱ	②	30	1	後期	阿部 隆夫 横山 利夫 松井 真人 渡邊真由美	②								
	20020	20022	〃														
	20020	20023	〃														
	20020	20024	〃														
			発展英語表現Ⅰ	2	30	2	前期	マーニ・タワアコリ									
			〃														
			発展英語表現Ⅱ	2	30	2	後期	マーニ・タワアコリ									
			〃														
	20110	20111	英会話Ⅰ（火曜Ⅰ限）	②	30	1	前期	マーニ・タワアコリ	②								
	20110	20112	〃（火曜Ⅳ限）														
	20110	20113	〃（木曜Ⅴ限）														
	20120	20121	英会話Ⅱ（月曜Ⅲ限）	②	30	1	後期	マーニ・タワアコリ	②								
	20120	20122	〃（火曜Ⅳ限）														
	20120	20123	〃（木曜Ⅳ限）														
	20210		リーディングⅠ	2	30	1・2	前期	渡邊真由美									
	20220		リーディングⅡ														
20230		リーディングⅢ															
20240		リーディングⅣ															
20310		ライティングⅠ	2	30	1	前期	米野 裕子										
		ライティングⅡ															
20410		リスニングⅠ	2	30	1	後期	阿部 隆夫										
		リスニングⅡ															
20461		TOEICリスニングⅠ	2	30	1	前期	北山 長貴										
		TOEICリスニングⅡ															
20510		英文法Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人	②									
	20520	英文法Ⅱ															
20610		時事英語	2	30	1・2	前期	渡邊真由美			外国							
英米文学科目	20710		イギリス文学史	2	30	1・2	前期	小林 亜希	○	8・9月開講	教養 教養 教養 教養 外国						
	20720		アメリカ文学史														
	20730		イギリス文学作品研究														
	20740		アメリカ文学作品研究														
	20750		英米児童文学作品研究														
	20760		英米文学講読														
	20810		英米文学基礎演習Ⅰ	2	A	30	1	後期	小林 亜希								
	20820		英米文学基礎演習Ⅱ	2	②	30	1	後期	渡邊真由美								
		英米文学演習Ⅰ	4	B	60	2	通年	小林 亜希	※注意1 第1学年はA群 （基礎演習）の 7科目のうち1 科目を選択、 第2学年はB群 （演習）の7科 目のうち1科目 を選択								
		英米文学演習Ⅱ	4	④	60	2	通年	渡邊真由美									
21010		英語学基礎演習Ⅰ	2	A	30	1	後期	横山 利夫									
21020		英語学基礎演習Ⅱ	2		30	1	後期	松井 真人									
21030		英語学基礎演習Ⅲ	2		②	30	1	後期	北山 長貴								
		英語学演習Ⅰ	4	B	60	2	通年	横山 利夫	○ ○ ○								
		英語学演習Ⅱ	4		60	2	通年	松井 真人									
		英語学演習Ⅲ	4		④	60	2	通年		北山 長貴							
英語学科目	21210		英語学入門Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人	○		教養 教養 教養						
	21220		英語学入門Ⅱ														
	21230		英語学入門Ⅲ														
			英語学講読														
ケ文化とコミュニケーション	21330		西洋史	2	30	1・2	前期	山崎 彰	②	[日]「外国史2」で読替	教養 教養 教養 教養						
	21340		日本文化論														
	21351		異文化理解														
	21370		異文化コミュニケーション														
	21320		英米文化論														
	21380		異文化理解基礎演習									2	A	30	1	後期	畑田 秀将
	21381		異文化コミュニケーション基礎演習									2	②	30	1	後期	阿部 隆夫
			異文化理解演習									4	B	60	2	通年	畑田 秀将
		異文化コミュニケーション演習	4	④	60	2	通年	阿部 隆夫									
		卒業研究	4		2												

(注) ○数字は必修単位、}数字は選択必修単位
「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. 英文法の復習と英作文の練習をします。 2. コロケーション（語と語の組み合わせ）や句動詞（動詞と不変化詞の組み合わせ）など英語特有の語法を知ることを目標とします。		
授業計画	第1回	文の主語・注意すべき名詞の用法	
	第2回	冠詞の使い方・誤用の多い代名詞	
	第3回	使い方を誤りやすい動詞・基本時制の用法	
	第4回	進行形と完了形	
	第5回	法助動詞の意味と用法・使役の表現	
	第6回	受動態を使用する場合の留意点	
	第7回	準動詞の用法・形容詞の使い方	
	第8回	注意すべき副詞の用法・比較表現	
	第9回	否定表現・関係詞の用法	
	第10回	仮定法の用法	
	第11回	前置詞の意味と用法・接続詞の機能	
	第12回	時制の一致と話法	
	第13回	強調と倒置	
	第14回	内容語と機能語・限定詞	
	第15回	句動詞・コロケーション	
授業概要	英語表現に必要な基本文法事項の解説と練習問題を各自予習してもらいます。授業で答え合わせをします。また、プリントを使いコロケーション、句動詞、限定詞、機能語、内容語を解説します。テキストを毎回2課進みます。練習問題はノートに予習してきてください。		
テキスト	『基礎からはじめる英作文』（成美堂）1900円		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習を必ずしてきてください。ノートを1冊用意してください。教室へは必ず辞書を持ってきてください。		
評価方法	レポート（20%）、筆記試験（80%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読みとったり聞き取ったりし、目的に応じてその情報や考えを理解することができ、更には複数の領域を統合した言語活動が行えるようになること、CEFR-B2以上を目標にする。
授業計画	<p>第1回 personal information 職業・年齢など (のコミュニケーション、以下同じ)</p> <p>第2回 personal information 趣味・習慣など</p> <p>第3回 shopping 値段と割引</p> <p>第4回 shopping 値引き交渉</p> <p>第5回 restaurants メニュー、注文</p> <p>第6回 restaurants 心づけ</p> <p>第7回 humour ユーモアと冗談</p> <p>第8回 humour 困った瞬間の対処</p> <p>第9回 sports スポーツ観戦を語る</p> <p>第10回 sports 娯楽を語る</p> <p>第11回 future 未来の計画</p> <p>第12回 future 決めたこと、提案</p> <p>第13回 men and women ステレオタイプ</p> <p>第14回 men and women 統計と割合</p> <p>第15回 obligation and advice 警告と助言 (のコミュニケーション)</p>
授業概要	日常に不可欠な英語表現を実生活の場面設定の中で学ぶ。言語習得の最新訓練法と異文化間コミュニケーション事例を学ぶ。状況を軸にした会話応用練習で総合コミュニケーション能力を向上させる。各回の初めに文字を使わない外国語指導方法の実践例や、社会言語学に基づいたコミュニケーション事例分析を紹介する
テキスト	Peter Viney & Karen Viney, In English Pre-Intermediate (Oxford UP, 2005); タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社, 2011)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	各自の予習時に理解できなかった箇所に関しては日本語で最初に説明を受ける。その上で、平易な英語表現での指導の下、各練習にのぞむ。
評価方法	平常の発表課題 (30%)、提出課題 (50%) と試験 (20%)
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
横山 利夫			

授業のテーマ及び到達目標	<p>①「3行英文ライティング」：センテンス（文）・レベルのライティングは独立した単独の日本語の英語ライティングで、パラグラフ（段落）・レベルのライティングは内容的にまとまりのある複数の英文によるパラグラフ単位のライティングです。それら複数の英文のひとつひとつが前後の英文とのつながり方において適切でなければなりません。この授業「3行英文ライティング」ではパラグラフ・レベルのライティングに対応できるようになるための英語力を身につけることを目標にします。</p> <p>②テキストで使用されている基本的な言い回しを練習し、簡単な日常会話ができるようになることを目標にする。</p>		
授業計画	第1回	授業についてのガイダンス	
	第2回	Weather(進行形)	
	第3回	The Four Seasons(未来形)	
	第4回	Campus Life(助動詞)	
	第5回	Campus Life(2)(受動態)	
	第6回	Shopping(比較)	
	第7回	Eating Out(不定詞)	
	第8回	Music(現在完了)	
	第9回	Television and Radio(分詞)	
	第10回	Methods of Communication(動名詞)	
	第11回	Methods of Transportation(前置詞)	
	第12回	Traveling Overseas(間接疑問文)	
	第13回	Health and Exercise(接続詞)	
	第14回	A Stay in Hawaii(関係代名詞)	
	第15回	A Home Stay in Auckland, New Zealand(関係副詞)	
授業概要	上記の授業計画を参照のこと。前期に2回、山形大学の留学生の方々に参加していただき、様々なテーマで英会話を行う。		
テキスト	Hiroyuki Tomi, Curt Wold 著 Three-line Writing in English 成美堂 1800円 1回目の授業はテキストを購入しないで、参加してください。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	①については予習をしっかりとやること。②については積極的に英語で話そう。		
評価方法	平常点30点(特に、主体的な授業参加を重視、2/3以上の出席で、1回欠席5点減点、受講受理期間も出席を取る)、課題の提出(20点)、筆記試験(50点)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
小林 亜希			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと（やり取り・発表）ができる。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5. 複数の領域を統合した言語後活動を遂行することができる。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 Basic for Part 1 and Part5—形容詞と副詞</p> <p>第3回 Basic for Part 2 and Part5 (1)—名詞と代名詞</p> <p>第4回 Basic for Part 2 and Part5 (2)—時制「現在・過去・未来」</p> <p>第5回 Basic for Part3 and Part5—時制「完了形」</p> <p>第6回 Basic for Part4 and Part5—受動態と動詞のかたち</p> <p>第7回 Basic for Part6 and Part5—to不定詞 ※小テスト</p> <p>第8回 Basic for Part7 and Part5—接続詞と前置詞</p> <p>第9回 Strategies for Part1 and Part5:Part1の攻略法</p> <p>第10回 Strategies for Part2 and Part5—Part2の攻略法&Part5の復習問題</p> <p>第11回 Strategies for Part3 and Part5—Part3の攻略法&Part5の復習問題</p> <p>第12回 Strategies for Part4 and Part5—Part4の攻略法&Part5の復習問題</p> <p>第13回 Strategies for Part6 and Part5—Part6の攻略法&Part5の復習問題</p> <p>第14回 Strategies for Part7 and Part5—Part 7の攻略法&Part 5の復習問題</p> <p>第15回 まとめ ※小テスト</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> ①TOEICの問題を解くことによって、基本的な語彙と文法を習得し、リスニングとリーディングの基礎を涵養します。 ②毎時間、担当者を決めて自分の出身地を紹介するプレゼンテーションを英語で作成し、発表してもらいます。その後、担当者との受講者の間で簡単な質疑応答（やり取り）を英語で行います。 ③適宜、インターネットを利用して多様なジャンル（スピーチ、ニュース、日常会話等）の英語表現を学びます。
テキスト	Strategic Learning for the TOEIC TEST—目標スコアを超えるためのTOEICパート別完全攻略（松柏社）2052円（税別）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を引き、丁寧に予習してください。 ・適宜課題を出しますので、提出してください。
評価方法	授業での発表・課題（50%）、小テスト（50%） 授業の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考資料（ハンドアウト）を適宜配布します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			

授業のテーマ及び到達目標	様々な話題について目的、場面、状況に応じて話したり書いたりすることができ、言語活動の複数の領域を統合した活動を行うこと、CEFR-B2以上を目標にする
授業計画	<p>第1回 Starting conversations 天候の会話、情報を聞き出す（コミュニケーション、以下同様）</p> <p>第2回 Starting conversations 会話の継続（のコミュニケーション、以下同様）</p> <p>第3回 If … (subjunctives) 叙想法の表現、可能性の表現</p> <p>第4回 If … (subjunctives) 結果を述べる</p> <p>第5回 Health 健康に関する会話、健康のためのアドバイス</p> <p>第6回 Health 体の部位、治療法</p> <p>第7回 People 関係代名詞、服装を描写する</p> <p>第8回 People 推量の助動詞、仕事、役割を語る</p> <p>第9回 Changes 過去をさかのぼって語る、勤続〇十年を語る</p> <p>第10回 Changes 会社の中の事務機器の変化、生活の変遷</p> <p>第11回 On holiday 動詞の—ing形と—ed形の使い分け、休暇について語る</p> <p>第12回 On holiday 不定代名詞や動詞の原形を使う表現、謝罪、ホテルでの問題処理</p> <p>第13回 Stories 過去完了、物語の語り聞かせ</p> <p>第14回 Stories 過去時制と過去完了の区別、逸話を語る</p> <p>第15回 The news 受動態 新聞の見出し、ニュースのヘッドラインの話し方</p>
授業概要	日常に不可欠な英語表現を実生活の場面設定の中で学ぶ。言語習得の最新訓練法と異文化間コミュニケーション事例を学ぶ。状況を軸にした会話応用練習で総合コミュニケーション能力を向上させる。各回の初めに文字を使わない外国語指導方法の実践例や、社会言語学に基づいたコミュニケーション事例分析を紹介する
テキスト	Peter Viney & Karen Viney, In English Pre-Intermediate (Oxford UP, 2005); タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社, 2011）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各自の予習時に理解できなかった箇所に関しては日本語で最初に説明を受ける。その上で、平易な英語表現での指導の下、各練習にのぞむ。
評価方法	平常の発表課題（30%）、提出課題（50%）と試験（20%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
横山 利夫			

授業のテーマ及び到達目標	ライティングについて：多少の誤りを気にせず、まとまった内容の英文を書けるようになること。 スピーキングについて：テキストにある単語を用いて、自分の考えを英語で話せるようになること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Self description(Informal e-mail)	
	第3回	Description of campus life(school booklet)	
	第4回	Describing a problem and possible solutions(A) (school web page)	
	第5回	山大工学部の留学生と英語での交流	
	第6回	Inquiring about an internship (formal e-mail)Writing an entry for a class blog(Movie Review)	
	第7回	Writing an entry for a class blog(Movie Review)	
	第8回	前半の復習	
	第9回	Describing a problem and possible solutions (B) (School web page)	
	第10回	Writing about our special skills and giving advice(Student newsletter)	
	第11回	山形大学工学部の留学生と英語で交流	
	第12回	Describing your best experience(Personal story)	
	第13回	Describing trends over time(Description of a graph or charts)	
	第14回	Describing your school (Wikipedia entry)	
	第15回	後半の復習 受講者には毎回課題（作文）を提出してもらいます。それをコピーして、受講者全員でチェックします。	
授業概要	①ライティングについて：下記のテキストを使用して、さまざまな読者を想定したライティングの練習を行います。また、さまざまなプロセス（Warm-up, Language Focus, Example Models, Getting Ideas, First Draft, Editing, Reflection）を通じて英語での文章の書き方を学びます。 ②スピーキングについて：ライティングのテーマでスピーキングの練習を行います。また、山形大学の留学生に授業に参加していただき、さまざまなテーマで英会話を行う。		
テキスト	Neil Cowie and Keiko Sakui 著 Get It Down— You can write in English センゲージ ラーニング（2009）1890円 第1回目の授業はテキストなしで参加すること		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英語を話して、書く練習です。大いに間違ってください。毎回、予習が必要です。		
評価方法	提出課題40点、主体的な授業参加60点（授業回数の2／3以上 欠席1回6点減点、受講受理期間も出欠を取る）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
松井 真人			

授業のテーマ及び到達目標	身近な事柄について平易な英語で話したり、書いたりすることができること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	助けを求める表現／名詞の種類を学ぶ	
	第3回	紹介の仕方の表現／現在完了形を学ぶ	
	第4回	誘いの表現／受身形(1)を学ぶ	
	第5回	相手をほめる表現／付加疑問文を学ぶ	
	第6回	驚きの表現／関係代名詞を学ぶ	
	第7回	同意する・同意しない表現／代名詞を学ぶ	
	第8回	相づちの打ち方の表現／複文を学ぶ	
	第9回	確認の表現／受身形(2)を学ぶ	
	第10回	会話を始める表現／to不定詞を学ぶ	
	第11回	希望や願いの表現／接続詞を学ぶ	
	第12回	心配して尋ねる表現／命令文を学ぶ	
	第13回	推量・推測の表現／感嘆文を学ぶ	
	第14回	各自が選んだテーマについて英語で2～3分程度のスピーチをする。（第1グループ）	
	第15回	各自が選んだテーマについて英語で2～3分程度のスピーチをする。（第2グループ）	
授業概要	毎回、受講者は身近な事柄について英語で30秒から1分程度のスピーチをする。その後、テキストに沿って英作文の練習をする。最後の2回の授業では英語で2分から3分程度のスピーチを行い、話した内容を英文エッセイにまとめて後日提出し、担当教員の添削指導を受ける。		
テキスト	David E. Bramley・河合忠仁（著）Let's Learn Basic English for Communication 松柏社 1,836円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業でスピーチをする時には、難しい英語を使う必要はない。易しい英語でよいので、語法や文法に気をつけて、しっかり準備して話してほしい。受講生が提出した英文エッセイはできるだけ丁寧に添削したい。		
評価方法	授業への参加度50%、最終スピーチ20%、英文エッセイ30%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			

授業のテーマ及び到達目標	英文法を理解し、簡単な英文を書いたり・発話できるようにする。さらに、聞き取りの能力も身に着ける。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方についての説明	
	第2回	Unit 1 品詞	
	第3回	Unit 2 名詞の働きについて	
	第4回	Unit 3 動詞。他動詞と自動詞の違いなど	
	第5回	Unit 4 英語における時制	
	第6回	Unit 6 形容詞の用法について	
	第7回	Unit 7 副詞の働きと用法	
	第8回	Unit 8 関係詞と分詞構文	
	第9回	Unit 9 仮定法	
	第10回	Unit 10 法助動詞	
	第11回	Unit 11 能動態と受動態（1）	
	第12回	Unit 11 能動態と受動態（2）	
	第13回	Unit 12 前置詞	
	第14回	Unit 13 可算名詞と不可算名詞	
	第15回	Unit 14 定冠詞・不定冠詞	
授業概要	簡単な文法についての概説とそれを使った英作文をすることを中心に編まれたテキストを使用し、英文法についての説明を行ったうえで、各自に練習問題を解いてもらう。英作文は毎回提出してもらい、授業中に検討する。		
テキスト	Hideyuki Tera, Tetsuro Chihara著 _Vitamin G: Grammar to Energize Your English_ センゲージラーニング 2,000+税		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	辞書を必ず持参すること。予習をして来ること。		
評価方法	単元ごとに小テストを行う。小テストにはお礼状やクリスマスカード作りなども含まれる。 課題の提出状況 30%。 小テスト 70%。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is for students to learn words and expressions to convey their feelings and ideas clearly and effectively in English.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Body Idioms</p> <p>第3回 Values Reading</p> <p>第4回 My Favorite Book</p> <p>第5回 My Favorite Artist</p> <p>第6回 A Trip to My Hometown</p> <p>第7回 A Trip Abroad</p> <p>第8回 Audiovisual</p> <p>第9回 Fortunetelling</p> <p>第10回 Haiku Party</p> <p>第11回 Reading Discussion</p> <p>第12回 English Idioms</p> <p>第13回 Songs and Games</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	Using printed articles, the teacher will teach students expressions for discussing various topics. Students will then be divided into small groups to discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.
テキスト	There is no textbook for this class. The teacher will prepare copies of material for some classes. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	This class will be challenging and fun.
評価方法	50% of the grade will be based on attendance and class participation. 50% will be based on a final interview exam.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is for students to learn how to relate stories about their life and their experiences clearly in English.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Funny Stories</p> <p>第3回 Scary Stories</p> <p>第4回 Travel Stories</p> <p>第5回 Sports Stories</p> <p>第6回 Romantic Stories</p> <p>第7回 Game</p> <p>第8回 Animal Stories</p> <p>第9回 Embarrassing Stories</p> <p>第10回 Audiovisual</p> <p>第11回 Reading Discussion</p> <p>第12回 Future Stories</p> <p>第13回 A Day in the Life</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	Students will write a daily journal in English. Common mistakes from journals will be corrected each week. Students will be asked to prepare a story to present each week. There will also be dictation practice.
テキスト	There is no textbook for this class. Students will need 2 notebooks, for notes and English journal. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	This class is very challenging, but very effective for improving English ability.
評価方法	25% Class Attendance and Participation. 25% Final Interview Exam. 50% English Journal.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English. Only English will be used when teaching this class.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on attendance and class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English. Only English will be used when teaching this class. The contents of this class are different from English Conversation I.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Describing `People</p> <p>第3回 Family</p> <p>第4回 Comparison with Adjectives</p> <p>第5回 Numbers</p> <p>第6回 Shopping</p> <p>第7回 Time</p> <p>第8回 Audiovisual</p> <p>第9回 Music</p> <p>第10回 Fast Food</p> <p>第11回 American Money</p> <p>第12回 Health</p> <p>第13回 Hobbies and Free Time</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.
評価方法	50% of the grade will be based on attendance and class participation. 50% will be based on a final interview exam.
参考文献	
備考	

講義科目名称：リーディング I (20210)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			

授業のテーマ及び到達目標	20世紀の世界史、文化史、日本史について英語で記述された文章を読む。英語を正しく読み、聞き取れるようにすると同時に、今日まで直接的につながる歴史を概観していきます。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方、予習の仕方、評価方法についての説明を行う	
	第2回	1900-1910 世界の歴史 20世紀の幕開けと共に、アメリカ合衆国がいかにかに世界の主要国として台頭してきたかを読む。	
	第3回	1900-1910 科学 ライト兄弟の動力飛行機の初飛行について	
	第4回	1900-1910 日本 日本がいかにかにして帝国主義時代へと突入したのかを読む。	
	第5回	1910-1920 世界の歴史 第一次世界大戦について	
	第6回	1910-1920 文化史 絵画におけるモダニズム運動について	
	第7回	1920-1930 世界の歴史 ドイツの戦後賠償とその影響について	
	第8回	1920-1930 文化史 ジャズの登場について	
	第9回	Unit 10: 1930-1940 世界の歴史 大恐慌、その発生と影響について	
	第10回	Unit 11: 1930-1940 文化史 映画産業の興隆について	
	第11回	Unit 12: 1930-1940 日本 戦争への道	
	第12回	Unit 13: 1940-1950 世界の歴史 第二次世界大戦について	
	第13回	Unit 14 1940-1950 科学史 (1) 戦争と科学技術に進歩について	
	第14回	Unit 14: 1940-1950 科学史 (2) 戦争と科学技術の進歩について	
	第15回	Unit 16: 1950-1970 世界の歴史 冷戦時代について	
授業概要	20世紀の歴史を世界史、文化・科学史、日本史という3つの視点から書かれたテキストを読み進めていきます。授業では主に、世界の歴史と文化・科学の歴史を中心に読んでいきます。授業では、予習をしてきてもらい、授業中に指名し、訳をつけてもらいます。構文に注意しながら、正確に英文を読めるようにしていきます。		
テキスト	Mark Jewel 著 『20世紀レビューー世界・文化・日本ー』朝日出版社		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	歴史を知ることは、学ぼうとする国を知る第一歩です。アメリカの歴史を学びながらアメリカ社会やひいては世界を動かす力がどこから生まれてくるのかを考えてください。わからないところがあれば、どんどん質問してください。		
評価方法	定期試験 100%。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：リーディングⅡ（20220）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			

授業のテーマ及び到達目標	英語学概論として、英語に関する様々な話題を専門用語を避けて平易な英語で書かれた教科書を読みます。語彙力の養成、読解力の向上に取り組みます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 PartC： p 10, p14 Chap. 4 速読+Exercise A&B</p> <p>第3回 PartC： p 18, p22 Chap. 4 和訳発表+精読</p> <p>第4回 PartC： p 26, p30 Chap. 5 速読+Exercise A&B</p> <p>第5回 PartC： p 34, p38 Chap. 5 和訳発表+精読</p> <p>第6回 PartC： p 42, p46 Chap. 7 速読+Exercise A&B</p> <p>第7回 PartC： p 50, p54 Chap. 7 和訳発表+精読</p> <p>第8回 PartC： p 58, p62 Chap. 18 速読+Exercise A&B</p> <p>第9回 PartC： p 66, p70 Chap. 18 和訳発表+精読</p> <p>第10回 PartC： p 74, p78 Chap. 23 速読+Exercise A&B</p> <p>第11回 PartC： p 82, p86 Chap. 23 和訳発表+精読</p> <p>第12回 PartC： p 90, p94, p 98, p102</p> <p>第13回 PartC： p 106, p110</p> <p>第14回 習熟度の確認</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	演習形式で授業を行います。26章から5章を選んで読む予定です。和訳担当を決めて発表していただきます。訳すところの英文を読んでから、和訳をしてください。クラス全体に聞こえるようにゆっくりと大きな声で発表しましょう。発表者は和訳を紙に書いて用意してきましょう。そして、PartCの整序英作文を1回2章分ずつ取り組む予定です。
テキスト	英語についての26章 Twenty-six Short Essays on English (2013) 英宝社 定価1,995円 Naoyuki Akaso, William Herlofsky, Katsumasa Simuzu ISBN978-4-269-14018-9
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習として大まかな情報を読み取るだけなら、速読でいいのですが、読解に必要な語彙力養成のために単語の意味調べをするようにしましょう。和訳担当者以外の人にも内容に関する質問や和訳をお願いすることがあります。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。グループワークへの参加、提出物も評価の対象とします。授業参加（アクティビティへの参加など20点）、提出物（30点）、学期末試験（50点）
参考文献	音読MAX（2012）南雲堂 1,400円＋税 黒川裕一著 ISBN978-4-523-26512-2
備考	

講義科目名称：リーディングⅢ（20230）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
金子 淳			

授業のテーマ及び到達目標	1. 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。 2. 文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。 3. 英語で書かれた代表的な英語文学について理解している。
授業計画	<p>第1回 どうしたら英語を身につけることができるのか？</p> <p>第2回 英米文学を学ぶということについて</p> <p>第3回 ウィリアム・シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』 概要解説</p> <p>第4回 ウィリアム・シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』 読解</p> <p>第5回 ジェイン・オースティン 『プライドと偏見』 概要解説</p> <p>第6回 ジェイン・オースティン 『プライドと偏見』 読解</p> <p>第7回 マーガレット・ミッチェル 『風とともに去りぬ』 概要解説</p> <p>第8回 マーガレット・ミッチェル 『風とともに去りぬ』 読解</p> <p>第9回 英語を学ぶための異文化理解について</p> <p>第10回 ジョン・スタインベック 『エデンの東』 概要解説</p> <p>第11回 ジョン・スタインベック 『エデンの東』 読解</p> <p>第12回 トルーマン・カポーティ 『ティファニーで朝食を』 概要解説</p> <p>第13回 トルーマン・カポーティ 『ティファニーで朝食を』 読解</p> <p>第14回 バーナード・ショー 『ピグマリオン』 『マイフェア・レディ』 概要解説</p> <p>第15回 バーナード・ショー 『ピグマリオン』 『マイフェア・レディ』 読解</p>
授業概要	代表的な英語文学を読みながら、リーディングの力を養います。英語文学の素養を養うと同時にリーディングの力をつけることを狙いとします。
テキスト	使用しません。適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	きちんと予習をして、授業に臨んで下さい。授業の後は、必ず復習をするようにして下さい。
評価方法	授業中に課す課題40% + 複数回の小テスト40% + 受講する姿勢20%
参考文献	Steinbeck, John. The Complete Works of John Steinbeck, vol.8, East of Eden. Rinsen Book, 1990.ほか
備考	

講義科目名称：リーディングⅣ（20240）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			

授業のテーマ及び到達目標	文法や語法に注意を払いながら英文を精読することを通して、英語読解力を身につけること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Lesson 1 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第3回	Lesson 1 英文エッセイの精読	
	第4回	Lesson 2 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第5回	Lesson 2 英文エッセイの精読	
	第6回	Lesson 3 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第7回	Lesson 3 英文エッセイの精読	
	第8回	Lesson 4 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第9回	Lesson 4 英文エッセイの精読	
	第10回	Lesson 5 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第11回	Lesson 5 英文エッセイの精読	
	第12回	Lesson 6 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第13回	Lesson 6 英文エッセイの精読	
	第14回	Lesson 7 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第15回	Lesson 7 英文エッセイの精読	
授業概要	スヌーピーやチャーリー・ブラウンが登場する漫画Peanutsを題材としたテキストを用いる。各Lessonでは、英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習をした後で、漫画の内容に関連する英文エッセイを精読する。受講生が英文を訳し、担当教員が解説をするというやり方で授業を進める。		
テキスト	外山晴子（著）Enjoy English with Charlie Brown and Friends 南雲堂 2,268円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	必ず予習をしてから授業に参加すること。授業ではできるだけ丁寧に解説するが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：ライティング I (20310)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
米野 裕子			

授業のテーマ及び到達目標	この授業では、“会話するEmail”を目標に、様々な場面の英文メールが書けるようにします。		
授業計画	第1回	Unit1 「何か予定がある」	
	第2回	Unit2 「ものまねで英語上達」	
	第3回	Unit3 「内緒の話」	
	第4回	Unit4 「イチロウがレジェンドに」	
	第5回	Unit5 「メジャーリーグ開幕」	
	第6回	Unit6 「忘れないで」	
	第7回	Unit7 「今度の仕事はどう？」	
	第8回	Unit8 「話を聞いて嬉しい」	
	第9回	Unit9 「世界遺産」	
	第10回	Unit10 「ありがとう」	
	第11回	Unit11 「思い出の場所」	
	第12回	Unit12 「うわさ話」	
	第13回	Unit13 「富士山が噴火？」	
	第14回	Unit14 「シティカード紛失」	
	第15回	Unit15 「悲しみの表現」	
授業概要	テキストを中心に授業を進めます。各Unitで短いリスニング練習もします。		
テキスト	“E-MAIL TALKS” 南雲堂 2000円(税別) 竹村日出夫/大谷多摩貴 著 ※授業には辞書を持ってきてください。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	日常生活でよく使われる会話表現を含む英文メールが書けるようになりたい、と思う学生に最適な授業です。評価となる提出課題の作成には、参考になる補助資料を用意し、授業で作成上のポイントについて学びます。		
評価方法	授業への参加度(60%)、複数回の提出課題(40%)		
参考文献			
備考			

講義科目名称：ライティングⅡ（20320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
米野 裕子			

授業のテーマ及び到達目標	1. 外資系企業の現場で使うビジネス専門用語と文書を学びます。 2. 仕事で直面する様々な状況に対応するビジネス英会話の習得も目指します。
授業計画	第1回 手紙・ファックス 第2回 電子メール・電話 第3回 面会の申し入れ・ホテルの予約 第4回 支店の移転・開設通知 第5回 レセプションへの招待 第6回 アンケート回答・資料送付依頼 第7回 慶弔・退職願 第8回 会議の通知・議事録 第9回 物品購入 第10回 社内外研修の案内・報告 第11回 引合い（1）（2） 第12回 注文・代金回収 第13回 クレームと調整 第14回 履歴書・応募の手紙 第15回 企業面接・面接結果の通知
授業概要	毎授業の始めに、ビジネス用語集より「単語テスト」を行い、その後テキストに添って授業をします。
テキスト	豊田 暁 著 『ビジネス英語エッセンシャルズ』 南雲堂 2000円（税別）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	将来、外資系の企業で働いてみたい、又はビジネス英語に関心がある、という学生に最適な授業です。提出課題は、テキストより出されますので、授業に出て作成上のポイントを学ぶことが大切です。
評価方法	授業への参加度（40%）、単語テスト（30%）、複数回の提出課題（30%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：リスニング I (20410)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			

授業のテーマ及び到達目標	就職や留学の際に必須となるTOEIC (pt. 4) とTOEFLの聞き取りの得点を上げる。北アメリカの英語とヨーロッパの英語との両方が聞こえるようにすること
授業計画	<p>第1回 TOEFL 問題1、Nos. 1-5 (以下、T 1 -5) 願書に関する教授と学生の会話、 Headway, Chap.1 (以下、H1) 大学のオリエンテーション</p> <p>第2回 T 6-10 生物の試験勉強、 H1 履修登録の問い合わせ</p> <p>第3回 T 11-16 水資源の講義、 H2演習の導入授業</p> <p>第4回 T 17-22 哲学の講義、 H2 アシスタント授業tutorialの会話</p> <p>第5回 T 23-28 植物学の講義 H3 環境学の授業</p> <p>第6回 T 29-34 経営管理学の講義、 H3 地球環境維持の協会</p> <p>第7回 TOEFL問題2、 T 1-5 課題に関する教授との会話、 H4 建築学の講演</p> <p>第8回 T 6-11 人類学の講義、 H4建築学の講義</p> <p>第9回 T 12-16 生物学の講義、 H5 学習方法の授業</p> <p>第10回 T 17-21 職員への問い合わせ、 H5 複合知性の授業</p> <p>第11回 T 22-27 天文学の講義、 H6 技術革新のスピーチ</p> <p>第12回 T 28-33 芸術学の講義、 H6 技術に関する電話の会話</p> <p>第13回 TOEFL 問題3、 T 1-5 教室に関する問い合わせ、 H7 言語と文化の議論</p> <p>第14回 T 6-11 ハチドリ講義、 H7 プリゼンテーションの仕方</p> <p>第15回 T12-17 映画製作の講義、 H8 地理学のプレゼンテーション</p>
授業概要	コンピュータ端末受験TOEFL聞き取りセクションを紹介し、準備、訓練方法を学ぶ。またUKを基本とした英語の聞き取りになれることで、相対的に北アメリカ大陸の英語をも聞き取れるように練習する。同時に両方の発音の違いを学ばせる。
テキスト	The Official Guide to the TOEFL Test 4th Edition (McGraw Hill, 2013), Emma and Gary Pathare, Headway Academic Skills: Listening, speaking and Study Skills (Oxford UP, 2011)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	試験80%、音読復習20%
参考文献	
備考	

講義科目名称：リスニングⅡ（20420）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			

授業のテーマ及び到達目標	ビデオ教材については、内容を理解し、用意された質問に答えること。 ヒアリング教材については、冠詞、前置詞などの聞き漏らしを少なくすること
授業計画	<p>第1回 Call 911!</p> <p>第2回 I' m a little worried.</p> <p>第3回 It' s not that easy.</p> <p>第4回 Kayo, this is Brian.</p> <p>第5回 Life at Bernie' s Restaurant</p> <p>第6回 With Brian to the Rockefeller Center</p> <p>第7回 With Brian to Soho</p> <p>第8回 A Lesson from Mr. Altman</p> <p>第9回 A Double Date</p> <p>第10回 New York Streets</p> <p>第11回 Getting Ready to Act</p> <p>第12回 A Manhattan Halloween</p> <p>第13回 A Different Experience</p> <p>第14～15回 Forget it!, A Thanksgiving Dinner ①について：毎回以下のエピソードをビデオで見て、質問事項が書いてあるプリントで、内容を理解しているかどうか確認しながら授業を進める。 ②について：それぞれのユニットでは、時間、レイアウト、価格、指示、距離、比較、数量、場所、天候、仕事、電話、割合などの表現を学習します。</p>
授業概要	<p>①「Life in New York:使える英会話」というビデオ教材を用います。日本からニューヨークへ演劇の勉強のために留学した宮川香世さんが大都会で生活し、学び、友達と一緒に遊び、悩み、成長していく姿を描いたビデオです。ドラマとして楽しむと共に、リスニング力の向上をめざします。</p> <p>②5分間ヒアリング：日本人留学生の健と恵理がアメリカ人学生のDanやSusieと一緒に、キャンパスで繰り広げる生活の諸相です。各状況で話題にのぼっている内容に関して、情報を正確に聴き取るのに必要な基本的表現を学習します。</p>
テキスト	<p>① ビデオ教材：Life in New York 使える英会話</p> <p>② ヒアリング教材 Steve Jones, Tsukasa Matsui著 A Shorter Course in Listening 南雲堂 700円</p> <p>①はプリントを使用する。②については第1回目の授業で話す。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	間違ったらどうしようとか考えずに、積極的なプラス思考でやろう。
評価方法	期末試験と小テスト（60点）、平常点40点（主体的な授業参加を重視 2/3以上の出席、1回欠席5点減点、受講受理期間も出席を取る）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：TOEICリスニング I (20461)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. 新TOEICの出題形式を理解すること、そしてリスニング能力の向上を図る。 2. 英語を聞き取るために必要な英語の音声的特徴を理解する。
授業計画	1. Transportation and Information 2. Instructions and Explanation 3. Eating and Drinking 4. Business Scene 5. English Vowels and Consonants (英語の母音と子音) 6. Strong and Weak forms of English words (強形と弱形) 7. Contractions and Elisions (短縮形と省略形) 8. Communication 9. Socializing 10. Invitation 11. Medical Treatment and Insurance 12. Cultural and Entertainment 13. Shopping 14. Sports and Exercise 15. Trouble and Claims
授業概要	TOEICテストのリスニングセクションに対応できるリスニング練習を行います。テキストは1回の授業で1課進みます。授業では新TOEICの出題傾向、リーディングセクションとリスニングセクションの両方、を紹介しします。またリスニング能力の向上に必要な英語の音声的特徴についても紹介しします。
テキスト	『TOEIC L&R テストへのファーストステップ―改訂新版―』成美堂 2000円 ISBN 978-4-7919-3092-1
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	・教室に辞書を持ってきてください。出席は毎回取ります。 ・授業の最後にまとめのリスニング小テストを毎回行います。
評価方法	・小テスト (50%)、筆記試験 (50%)
参考文献	
備考	

講義科目名称：TOEICリスニングⅡ（20462）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			

授業のテーマ及び到達目標	TOEIC Listening & Reading Testのリスニングセクションで300点以上のスコアを取ることができる英語リスニング力を身につけること。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 Eating Out</p> <p>第3回 Unit 2 Travel</p> <p>第4回 Unit 3 Amusement</p> <p>第5回 Unit 4 Meetings</p> <p>第6回 Unit 5 Personnel</p> <p>第7回 Unit 6 Shopping</p> <p>第8回 Unit 7 Advertisement</p> <p>第9回 Unit 8 Daily Life</p> <p>第10回 Unit 9 Office Work</p> <p>第11回 Unit 10 Business</p> <p>第12回 Unit 11 Traffic</p> <p>第13回 Unit 12 Finance and Banking</p> <p>第14回 Unit 13 Media</p> <p>第15回 Unit 14 Health and Welfare</p>
授業概要	毎回、リスニングをする際に注意すべきポイントを担当教員が解説した後、受講生はTOEIC形式の問題を解いていく。その後、答え合わせをしながら、担当教員が問題の解説をする。この授業では主にリスニングセクションの練習をやっていくが、時間のある限り、リーディングセクションの練習もする予定である。
テキスト	北尾泰幸・西田晴美・林姿穂・Brian Covert（編著）『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2』朝日出版社 1,836円（税込）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業ではできるだけ詳しく問題の解説をしていきたい。受講生の皆さんは、テキストの問題を収録した音声ファイル（無料でダウンロード可能）、ラジオ、テレビ、インターネット、市販教材などを利用して、授業以外の時間にもできるだけ多く英語を聞く努力をしてほしい。
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
備考	

講義科目名称：英文法 I (20510)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			

授業のテーマ及び到達目標	本学英語英文学科で専門的な勉強する上で必要な英文法の知識を身につけること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	品詞	
	第3回	時制・進行形	
	第4回	基本5文型	
	第5回	現在完了	
	第6回	過去完了・未来完了	
	第7回	法助動詞	
	第8回	仮定法	
	第9回	関係節	
	第10回	関係副詞	
	第11回	分詞構文	
	第12回	冠詞	
	第13回	不定詞	
	第14回	受け身形	
	第15回	使役形	
授業概要	毎回、担当教員がテキストに沿って文法項目の解説をした後で、受講生は練習問題に取り組む。		
テキスト	藤田直也（著）『クラスで読む英文法』朝日出版社 1,944円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ丁寧に解説していくが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。また、しっかり予習と復習をして、授業で学んだことを徹底的に覚え、英文法の知識を増やしてほしい。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			

授業のテーマ及び到達目標	英語圏で文法を学習するように英語のままの文法用語で理解し文法の説明ができるようになること		
授業計画	第1回	単純現在と現在進行形、過去時制（の問題練習、以下同様） 以下主教材の予定（副教材では下記問題集を毎回1ページずつ15ページまで進む）	
	第2回	現在完了と単純過去の比較、過去完了（の問題練習、以下同様）	
	第3回	未来時制、助動詞（能力・許可・要求）	
	第4回	助動詞（可能性・命令・義務）	
	第5回	不定詞と動名詞の比較	
	第6回	受動態、動詞句	
	第7回	間接話法	
	第8回	仮定法、不可算名詞と可算名詞	
	第9回	所有詞、指示語	
	第10回	数量詞、比較級・最上級	
	第11回	同程度を示す形容詞、副詞	
	第12回	文接続の副詞、前置詞と名詞句の接続	
	第13回	前置詞句、接続語	
	第14回	文の接続、関係節	
	第15回	時、場所、理由の表現、語句の省略方法	
授業概要	中級程度の文法項目を中心に取り上げ、それを英語圏で文法を学習するように英語のままの文法用語で理解し文法の説明ができるようになる程度まで練習する。その過程で英語文法の素養を育む。各自が文法を暗記するよりも、言語認識の観点から自分の言葉で文法の仕組みを説明できるレベルを目指す。また副教材では、日本語発想の文法・語彙の間違いを問題形式で習う。		
テキスト	Norman Coe, Oxford Living Grammar, Intermediate (Oxford UP, 2012), 副教材Takao Abe, Common Mistakes of English (非売品のため無料配布)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	設問と答え・解説が明快でTOEFLやTOEICにも応用できる文法項目別構成の問題集を使うので、毎回1, 2単元の予習が必要となる。		
評価方法	毎回の小テスト（40%）と期末試験（60%）で判定する。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡邊 真由美			
開放（外国語）			

授業のテーマ及び到達目標	新聞や雑誌に書かれている英語を読み、内容が理解できるようになる。さらには、英文の内容を日本語で手短かにまとめることができるようになる。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方、評価方法、予習の仕方についての説明	
	第2回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第3回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第4回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第5回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第6回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第7回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第8回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第9回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第10回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第11回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第12回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第13回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第14回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第15回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
授業概要	新聞や雑誌などの記事を予習として読んできてもらって、授業中にその記事についての問題を解いてもらう。問題としては、訳・内容確認・内容を要約するなど。それらの問題を30分ほどで解き、同授業内で他己採点する。他己採点が終わった解答を一時回収。		
テキスト	毎回、翌週に使用する記事を配布。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	事前に渡す記事を必ず読んで授業に出席すること。質問に対して「わかりません」と答えることがないようにしっかり準備をして授業に参加すること。文法の詳しい説明をしている時間的余裕はありません。ある程度の文法を知識を身につけていることが望ましい。		
評価方法	毎回の解答を見せてもらい評価とする。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：イギリス文学史（20710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	1. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。 2. イギリス文学で描かれている国・地域の文化・歴史について理解している。 3. 代表的なイギリス文学について理解している。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスーイギリス文学とは何か</p> <p>第2回 古英語・中英語の文学</p> <p>第3回 ルネサンスの詩</p> <p>第4回 シェイクスピア（1）ー詩について</p> <p>第5回 シェイクスピア（2）ー演劇について</p> <p>第6回 清教徒革命～王政復古期の文学（1）ージョン・ダンを中心に</p> <p>第7回 清教徒革命～王政復古期の文学（2）ーミルトンを中心に</p> <p>第8回 小説の誕生（1）ーアフラ・ベインからデフォーまで</p> <p>第9回 小説の誕生（2）ー『ガリヴァー旅行記』を中心に</p> <p>第10回 ロマン主義の詩</p> <p>第11回 ヴィクトリア朝の小説（1）ーオースティン、ブロンテ姉妹を中心に</p> <p>第12回 ヴィクトリア朝の小説（2）ーディケンズ、コナン・ドイルを中心に</p> <p>第13回 両世界大戦間の文学</p> <p>第14回 第二次世界大戦後の文学</p> <p>第15回 まとめー21世紀の文学</p>
授業概要	イギリス文学の歴史を、時代毎に代表的な作家のテキスト（詩、演劇、小説）の一部を読みながら概観します。英語表現に留意することは勿論ですが、文学テキストだけでなく、映画や絵画等の多様な文化表象を手がかりに、歴史と文学のダイナミズムを捉えてみたいと思います。
テキスト	参考資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回コメントシートに感想や質問を書いてもらい、次の授業で受講者の関心に応えることで、双方向的な授業を目指します。 ・毎回参考図書を紹介しします。積極的に図書館を活用してください。
評価方法	試験（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	『イギリスの歴史が2時間でわかる本』、河出書房新社（670円）
備考	

講義科目名称：アメリカ文学史（20720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
渡邊 真由美			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	アメリカ文学の歴史の大枠を外観し、アメリカの社会や政治と連動させて考えることができるようになる。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方、参考となる本の紹介など	
	第2回	植民地時代の文学 説教文学とベンジャミン・フランクリン	
	第3回	独立戦争期 政治的パンフレット、フィリップ・フレノーなど	
	第4回	ロマン主義 ワシントン・アーヴィング、ジェームズ・フェニモア・クーパー、エドガー・アラン・ポーなど	
	第5・6回	アメリカン・ルネサンス ラルフ・ワルドー・エマソン、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー、ナサニエル・ホーソーン、 ハーマン・メルヴィル、ウォルト・ホイットマン、ストウ夫人、エミリー・ディキンソンなど	
	第7回	南北戦争と西部の文学 マーク・トウェイン	
	第8・9回	リアリズム文学・自然主義文学 ヘンリー・ジェイムズ、ウィリアム・ディーン・ハウエルズなど	
	第10回	女性文学 ケイト・ショパン、セアラ・オーン・ジュエット、ウィラ・キャザー、ガートルード・スタイン など	
	第11回	「失われた世代」 アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルドなど	
	第12回	南部文学 ウィリアム・フォークナー、エレン・グラスゴーなど	
	第13回	演劇 ユージン・オニール、ソートン・ワイルダー、テネシー・ウィリアムズ、アーサー・ミラーな ど	
	第14回	50年代文学 J・D・サリンジャー、ビート・ジェネレーション	
	第15回	マイノリティ文学 アジア系アメリカ人、ユダヤ系、黒人文学など	
授業概要	アメリカ文学史をまとめたテキストを使い、適宜作品からの引用を使用し、講義形式で行う。		
テキスト	西田実 『アメリカ文学史』成美堂 2,400円＋税		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業のなかで紹介した作品のうち一作でもよいので、実際に読んで、アメリカ文学が内包している問題を考えてみてください。		
評価方法	全15回の授業のうち、10回の小テスト（10点満点）を行います。基本的には前回の授業の内容を問うものです。そのテスト点数の総計で51点をとった場合のみ、期末のレポート試験を受けることができます。期末のレポート試験の課題は授業で紹介した作品を一作読んで、その作品について論じてもらいます。		
参考文献	渡辺利雄著『講義 アメリカ文学史』（全3巻）研究社、亀井俊介著『アメリカ文学史』（全3巻）南雲堂		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 三つの文学ジャンル（詩、演劇、小説）を読むことを通して文学テキストを多様なコンテキストから解釈する方法を学び、イギリスの思想、歴史、文化についての基本的な理解を深める。</p> <p>2. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。</p> <p>3. イギリス文学で描かれている国・地域の文化について理解している。</p> <p>4. 代表的なイギリス文学について理解している。</p>
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス：「解釈」とは何か</p> <p>第2回 詩①—BlakeとWordsworth：ロマン主義の詩</p> <p>第3回 詩②—Blake の ‘The Chimney Sweeper’ を読む</p> <p>第4回 詩③—詩と絵画について</p> <p>第5回 詩④—Shakespeare の Sonnet を読む</p> <p>第6回 演劇①—演劇とは何か</p> <p>第7回 演劇②—映画『ハムレット』の鑑賞と分析：物語の構造</p> <p>第8回 演劇③—映画『ハムレット』の鑑賞と分析：独白の効果</p> <p>第9回 演劇④—『ハムレット』における「理性」と「情熱」</p> <p>第10回 演劇⑤—『ハムレット』における「生きるべきか、死ぬべきか」の意味</p> <p>第11回 『高慢と偏見』を読む①—小説とは何か</p> <p>第12回 『高慢と偏見』を読む②—リアリズムとは何か</p> <p>第13回 『高慢と偏見』を読む③—イギリス文学における階級と結婚</p> <p>第14回 『高慢と偏見』を読む④—「文学」と「文化」</p> <p>第15回 まとめ：レポートの書き方</p>
授業概要	詩、演劇、小説の中から、それぞれ代表的な作品を取り上げ、文学的修辞法や文化的コンテキストに留意しながら、テキストの一部を読み進めていきます。講読と講義を織り交ぜながら進める予定です。扱う詩人は、Shakespeare、Wordsworth、Blakeです。演劇は、William Shakespeare (1564-1616) のHamlet(1602) を扱い、映画を見ながら分析します。小説は、Jane Austen(1775-1817)のPride and Prejudice(1813)を扱います。
テキスト	適宜資料を配付します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・扱うテキストは事前に配布しますので、予習して授業に臨んで下さい。 ・翻訳でよいので、事前に『ハムレット』と『高慢と偏見』を通読しておくことで理解が深まります。 ・毎回リアクション・ペーパーを配布するので、疑問・質問を書いてください。次週の授業で答えます。 ・受講者の関心・理解に応じて、進度、内容は変更することがあります。
評価方法	レポート（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	<p>1. 平井 正穂(編)『イギリス名詩選』(岩波文庫) 929円</p> <p>2. ウィリアム・シェイクスピア(河合祥一郎訳)『新訳ハムレット』(角川文庫) 518円</p> <p>3. ジェーン・オースティン(阿部知二訳)『高慢と偏見』(新潮文庫) 1026円</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			

授業のテーマ及び到達目標	英語で書かれた小説を正しく理解できるようになることを目指す。 アメリカ合衆国の19世紀末の女性がどのような状況に置かれていたのかを、作品を通して理解する。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 授業の進め方などについて説明する</p> <p>第2回 「黄色い壁紙」を読む 9-10ページ。</p> <p>第3回 「黄色い壁紙」を読む 10-11ページ。</p> <p>第4回 「黄色い壁紙」を読む 12-13ページ。</p> <p>第5回 「黄色い壁紙」を読む 14-15ページ。</p> <p>第6回 「黄色い壁紙」を読む 16-17ページ。</p> <p>第7回 「黄色い壁紙」を読む 18-19ページ。</p> <p>第8回 「黄色い壁紙」を読む 20-21ページ。</p> <p>第9回 「黄色い壁紙」を読む 22-23ページ。</p> <p>第10回 「黄色い壁紙」を読む 24-25ページ。</p> <p>第11回 「黄色い壁紙」を読む 26-27ページ。</p> <p>第12回 「黄色い壁紙」を読む 28-30ページ。</p> <p>第13回 「黄色い壁紙」を読む 31-33ページ。</p> <p>第14回 「黄色い壁紙」を読む 34-36ページ</p> <p>第15回 レポートの書き方 レポートの書き方について具体的に指示する。 テーマの見つけ方、論述の仕方、表記の問題など。</p>
授業概要	アメリカ合衆国の19世紀末に女性の権利獲得のための活動家でもあったCharlotte Perkins Gilman（シャーロット・パーキンス・ギルマン）が発表した“The Yellow Wall-Paper”「黄色い壁紙」を読む。近年、フェミニスト批評から大会評価を得ているこの作品は、当時の女性たちが家庭の中に押し込まれている姿を象徴的に描いているとされている。丁寧に精読していきながら、英語を正しく読むことを身につけ、さらに当時の女性の状況を理解できるようにする。
テキスト	Charlotte Perkins Gilman, “The Yellow Wall-paper.” The Feminist Press.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業では、予習をしてきてもらって、それぞれの訳を発表してもらいます。他の人と比較することで、自分がどうしてその日本語を選択するにいたったか、ということを考えることになると思います。そこから、自分なりの作品に対する解釈が生まれてくるはずです。
評価方法	レポート80%。授業への積極的な取り組み20%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英米児童文学作品研究（20750）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
井辻 朱美			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	今や児童文学の話題作品の多くがファンタジーです。ファンタジーとは何か、『不思議の国のアリス』から『ハリー・ポッター』にいたるこの文学の現代的意味あいとその可能性を考えます。
授業計画	－
授業概要	ファンタジーに特有のモチーフやトピックを抽出し、作品をクロスオーバー的に見ていきます。項目としては「タイム・ファンタジー」「自然界のエレメント（地水火風）と無意識」「家屋の物語」「編集される空間——博物館ファンタジー」「サイコ・ファンタジー」「死後譚と輪廻転生」「魔法ファンタジー」「人工生命（人形・ロボット・フィギュア）と身体論」「梓物語」などを予定していますが、まずは、原点の『不思議の国のアリス』『ピーター・パン』から入ります。 その他、J・R・R・トールキン、C・S・ルイス、U・K・ル＝グウィンなどモダン・ファンタジーの代表的作家のモチベーションや方法論なども見る予定ですが、今年度は重点的に『ハリー・ポッター』と現代のファンタジーを取り上げます。映像を多く使う予定です。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の感性、ものの見方を大切にして作品と向き合ってください。今年度の児童文学の流れを中心に、いくつかの作品に絞ってゆきます。進行は昨年アンケートをふまえ、やや作品数をへらし、ゆっくりにしたいと思います。
評価方法	10月末提出のレポートによります。レポートに取りあげる作品は書物に限らず、アニメ、コミック、映画なども含めます。基準としては、レポート（75%）、授業への参加度（25%）です。
参考文献	主にプリントでそのつど紹介
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（外国語）			

授業のテーマ及び到達目標	1. 基本的な語彙と文法に留意しながら、英語を正確に読む基礎を身につける。 2. 文化、歴史、修辞技法などに留意しながら、文学テクストを読む基礎を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 英文読解の基礎</p> <p>第3回 物語論(Narratology) 入門</p> <p>第4回 ‘Hills Like White Elephant’ を読む①—なぜ代名詞を用いるのか</p> <p>第5回 ‘Hills Like White Elephant’ を読む②—視点の問題</p> <p>第6回 ‘Hills Like White Elephant’ を読む③—imageryについて</p> <p>第7回 ‘Hills Like White Elephant’ を読む④—語りと視点について</p> <p>第8回 ‘Hills Like White Elephant’ の解釈</p> <p>第9回 ‘Araby’ を読む①—語りと視点</p> <p>第10回 ‘Araby’ を読む②—imageryについて</p> <p>第11回 ‘Araby’ を読む③—自由間接話法</p> <p>第12回 ‘Araby’ を読む④—イングランドとアイルランド</p> <p>第13回 ‘Araby’ の解釈と構造主義批評</p> <p>第14回 ‘Araby’ の解釈とポストコロニアル批評</p> <p>第15回 まとめ：レポートの書き方について</p>
授業概要	アイルランドの作家James Joyce (1882-1941) のDubliners (1914) に所収されている短編小説‘Araby’ とアメリカの作家Ernest Hemingway (1899-1961) のMen Without Women (1927) に所収されている短編小説‘Hills Like White Elephant’ を精読します。一文ずつ訳読しながら読み進め、重要な英語表現、語りの技法、文化的背景を解説します。また、物語論(Narratology)等の文学理論を援用した分析の方法についても講義します。
テキスト	ハンドアウトを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を丁寧に引いて予習してください。 ・図書館とインターネットを積極的に活用してください。 ・毎回リアクション・ペーパーを配布するので、質問を書いてください。次週の授業で答えます。 ・受講者の関心・理解に応じて、進度は変わることがあります。
評価方法	授業での発表（20％）レポート（80％）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。 2. イギリス文学で描かれている国・地域の文化について理解している。 3. 基本的な語彙と文法に留意しながら、英語を正確に読む基礎を身につける。 4. 文化、歴史、修辞技法などに留意しながら、文学テクストを読む基礎を身につける。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 小説読解の基礎知識</p> <p>第3回 「赤毛同盟」を読む①—pp. 45-48</p> <p>第4回 「赤毛同盟」を読む②—pp. 49-54</p> <p>第5回 「赤毛同盟」を読む③—pp. 55 - 59</p> <p>第6回 「赤毛同盟」を読む④—pp. 60 - 64</p> <p>第7回 「赤毛同盟」を読む⑤—pp. 65-69</p> <p>第8回 「赤毛同盟」を読む⑥—pp. 70-74</p> <p>第9回 「赤毛同盟」を読む⑦—pp. 75-79</p> <p>第10回 「赤毛同盟」を読む⑧—pp. 80-84</p> <p>第11回 「赤毛同盟」を読む⑨—pp. 85-86</p> <p>第12回 構造主義理論を援用したテクスト分析</p> <p>第13回 精神分析理論を援用したテクスト分析</p> <p>第14回 ポストコロニアル理論を援用したテクスト分析</p> <p>第15回 まとめ—レポートの書き方について</p>
授業概要	アーサー・コナン・ドイル(Arthur Conan Doyle, 1859 - 1930) の「赤毛同盟」(The Red-Headed League, 1890) を語りの技法、文化的、社会的背景等に留意しながら精読・分析します。また、構造主義理論、精神分析理論、ポストコロニアル理論を援用したテクスト分析の基礎を学びます。毎時間、担当者が一定量の英文を訳読・要約した上で、問題点について考察しますので、綿密な予習が必要です。
テキスト	Arthur Conan Doyle 著『まだらの紐・赤髪連盟—シャーロック・ホームズの冒険』(英光社) 1,728円(税込)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法から丁寧に解説し、わかりやすい説明を心がけたいと思います。 ・丁寧に予習し、問題点を考えて演習に臨んでください。
評価方法	授業での発表(20%)、レポート(80%)。授業回数数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	適宜紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			

授業のテーマ及び到達目標	アメリカ合衆国の初期の文学作品、Washington Irving（ワシントン・アーヴィング）の_Sketch Book_（『スケッチ・ブック』）から“Rip Van Winkle”（「リップ・ヴァン・ウインクル」）を読む。正しく英語を読めるようにすることに主眼をおきつつ、作品中に表れる伏線や比喩、そして時代の変化を読み解いていく。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 授業の進め方についての説明、ワシントン・アーヴィングについて</p> <p>第2回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 25ページ</p> <p>第3回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 26ページ</p> <p>第4回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 27-28ページ</p> <p>第5回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 29-30ページ</p> <p>第6回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 31-32ページ</p> <p>第7回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 33-34ページ</p> <p>第8回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 35-36ページ</p> <p>第9回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 37-38ページ</p> <p>第10回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 39-40ページ</p> <p>第11回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 41-42ページ</p> <p>第12回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 43-44ページ</p> <p>第13回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 45-46ページ</p> <p>第14回 「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 47-48ページ</p> <p>第15回 まとめ レポートの書き方について テーマの見つけ方、論述の仕方、表記の問題などについて</p>
授業概要	独立革命前夜のアメリカでのんきに暮らすリップが、小人と共に遊び疲れて寝てしまうと、一晩で30年が経過していた——アメリカ版浦島太郎と呼ばれている作品だが、独立革命の前と後での社会環境の違いや、比喩表現にあふれ、かつ緻密な構成を持っているこれらを丁寧に、正確に読んでいく。授業では、毎回予習をしてきてもらって、指名して訳をつけてもらう。さらに、アメリカ独立革命についても、理解を深める。
テキスト	Washington Irving, __The Sketch-Book__ 平井正穂註、開文社出版英文選書
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	小説を読む、ということの楽しさを感じることでできる作品です。さらに、英語のお手本として長く日本の英語の教科書にも採用されてきました。楽しく英語の小説を読んでください。
評価方法	レポート60%。積極的な授業参加40%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英米文学演習 I (20910)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小林 亜希			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な語彙と文法に留意しながら、英語を正確に読む基礎を身につける。 2. 文化、歴史、修辞技法などに留意しながら、文学テクストを読む基礎を身につける。 3. 文学理論の基礎を学び、多様な解釈の方法を身につける。 4. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。 5. イギリス文学で描かれている国・地域の文化について理解している。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 カズオ・イシグロにおける「信頼できない語り手」</p> <p>第3回 ユートピア／ディストピア文学について</p> <p>第4回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter1</p> <p>第5回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter2</p> <p>第6回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter3</p> <p>第7回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter4</p> <p>第8回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter5</p> <p>第9回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter 6</p> <p>第10回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter7</p> <p>第11回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter8</p> <p>第12回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter9</p> <p>第13回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter10</p> <p>第14回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter11</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>第16回 レポートの書き方について</p> <p>第17回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter12</p> <p>第18回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter13</p> <p>第19回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter14</p> <p>第20回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter15</p> <p>第21回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter16</p> <p>第22回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter17</p> <p>第23回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter18</p> <p>第24回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter19</p>

	<p>第25回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter20</p> <p>第26回 『私を離さないで』を精読し、議論：chapter21</p> <p>第27回 カズオ・イシグロ諸作品との比較分析：chapter22</p> <p>第28回 『私を離さないで』における〈新自由主義〉：chapter23</p> <p>第29回 『私を離さないで』におけるテクノロジーの問題</p> <p>第30回 全体のまとめ</p>
授業概要	イギリスの作家カズオ・イシグロ (Kazuo Ishiguro, 1954-) の『私を離さないで』(Never Let Me Go, 2005) を精読し、分析します。『私を離さないで』は、いわゆる「信頼できない語り手」を用いたディストピア小説であり、現代のテクノロジーを主題にしたSF小説でもあります。毎回10～15ページ程度を担当者がプレゼンテーション(訳読・要約)し、問題点を指摘した上で、テキストの解釈についてディスカッションします。最終的に、文学理論及び他のユートピア／ディストピア文学にも言及しながら、英文学で描かれるテクノロジーと倫理の問題について考察することが目的です。
テキスト	Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go. Faber and Faber, 2011. 1380円 (※その時々々のレートにより価格が変動します)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者との双方向的な授業を展開できるよう心がけたいと思います。 ・予習する際には辞書を引くだけでなく、図書館やインターネットを積極的に活用してください。
評価方法	レポート (50%)、授業中の発表 (50%)。授業回数数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英米文学演習Ⅱ（20920）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			

授業のテーマ及び到達目標	アメリカ文学を読む。原文を忠実に追いながら、ストーリーの展開だけでなく作者が作品中に取り入れた風俗・小説の技巧などにも注目し、作者がなにを描こうとしているのか、その意図も読みとれるようになる。19世紀末のニューヨーク下層階級の女性のあり方を理解できるようになる。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方についての説明、クレインについて	
	第2～28回	作品購読 担当を決めて読んでいきます	
	第29～30回	プレゼンテーション・ディスカッション、レポートの書き方 作品から感じたことを発表し、討論します。レポートの書き方について	
授業概要	1893年に出版されたスティーヴン・クレイン(Stephen Crane)の『街の女マギー』Maggie: A Girl of the Street を読んでいきます。19世紀末のニューヨークのスラム街で「泥沼に咲いた百合」と表される少女が誘惑されて、身を持ち崩し、やがては自殺する、という物語です。スラム街や、舞台、女性が自立することのむずかしさなど、19世紀末のニューヨークの姿が生々しく描かれています。歴史・社会・文化的な背景を考慮に入れながら小説を読み進めていきます。進め方は、毎回一章ずつ読んでいきます。発表者を決めて、内容紹介と注目点を発表してもらいます。最終的にはクレインの問題意識がどこにあったのかを読み解いていきます。		
テキスト	Stephen Crane, __Maggie: A Girl of the Street__. Ed., Thomas A. Gullason. 1893. New York: Norton Critical Edition, 1979.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	辞書を引いてください。百数十年前の自分と同世代の女性が、ニューヨークで一人で生きていく、ということがどういうことであったのか、感じてください。		
評価方法	授業への積極的な参加	20%	レポート 80%
参考文献			
備考			

講義科目名称：英語学基礎演習 I (21010)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			

授業のテーマ及び到達目標	テキストにある多くの例文を通して正しい英語の語法を学ぶこと。
授業計画	第1回 授業についてのガイダンス及び「英文誤り発見クイズ」 第2～15回 現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。
授業概要	It's often raining here. I'll phone you when I will arrive. I came here for study English. The life is difficult. I'd like to go and visit you next summer. When you come, take your picnic lunch. I went swimming to the river. I'll see you a few days later. これらの英文には誤りがあります。みなさんはそれぞれの誤りを指摘できますか。英語学習において、たとえば、仮定法がよく理解できない、完了形の使い方がわからない、分詞構文が苦手という方が多いのではないのでしょうか。現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心のある項目をテキストから選んで、例文などをプリントして、授業で説明してもらいます。
テキスト	Michael Swan 著 Practical English Usage, New Edition, オックスフォード大学出版局2005年 このテキストは2年次の演習でも使用する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英語を外国語として学ぶ私たちは単純な誤りでも気づかないことがよくあります。テキストにある多くの例文を通して正しい英語の語法を学びましょう。
評価方法	主体的な授業参加50点（出席2／3以上で、1回欠席5点減点、受講受理期間も出席を取る）、プリントを準備しての説明50点。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学基礎演習Ⅱ（21020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			

授業のテーマ及び到達目標	認知言語学の理論的枠組みで、英語と日本語の意味及び文法の様々な側面について理解すること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	空はなぜ青いのか？	
	第3回	「ものの見方」と意味	
	第4回	プロトタイプ	
	第5回	抽象化とスキーマ	
	第6回	イメージ・スキーマ	
	第7回	意味のネットワーク	
	第8回	メタファー	
	第9回	メトニミー	
	第10回	概念メタファー	
	第11回	方向性のメタファー：「上下」のメタファー	
	第12回	「色」とことば	
	第13回	構文と意味	
	第14回	ことばのダイナミズム	
	第15回	ことば、文化、普遍性	
授業概要	認知言語学の基本的な考え方は、言語の仕組みには人の認知（心の働き）が反映しているというものである。この授業では、このような認知言語学的な視点から、英語と日本語の意味や文法の諸相を考察していく。授業は演習形式で行う。毎回、当番の学生がテキストの内容の要約を発表し、担当教員が解説や補足説明を加える。最後に内容について全員で議論する。		
テキスト	谷口一美（著）『学びのエクササイズ 認知言語学』ひつじ書房 1,296円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英語や日本語の具体例を数多く挙げながら、言語と認知の関わりについて深く考えていきたい。授業では、できるだけ発言しやすい雰囲気を作りたいと思う。受講生の皆さんは授業の前にテキストをよく読み、わからない点は遠慮なく質問してほしい。		
評価方法	授業への参加度30%、テキストの要約発表の充実度30%、学期末レポート40%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

講義科目名称：英語学基礎演習Ⅲ（21030）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語の音声、語彙、統語（文の分析）についての基礎的内容を理解する。 2. 英文の内容を的確に読み、その内容を把握する力をつける。
授業計画	第1回 はじめに 第2～3回 Why Language? 第4～5回 How Did Speech Begin? 第6～7回 Could We Get Along Without Speech? 第8～9回 What is Language Made Up Of? 第10～11回 How Language Grows 第12～13回 Languages Come in Families 第14～15回 The Language of Europe
授業概要	英語という「ことば」について書かれたテキストを精読します。英語という言語を客観的に分析するのが英語学です。具体的には英語音声学（発音）と英語の形態論（単語）そして統語論（文）についての基本的な事項を勉強します。毎回、1人1行ごとの輪読をして、英語を正確に理解する訓練をします。
テキスト	“All About Language” by Mario Pei. (成美堂) 1,200円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキストの予習が前提の授業です。必ず教室に辞書を持ってきてください（電子辞書も可）。
評価方法	期末レポート課題
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学演習 I (21110)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
横山 利夫			

授業のテーマ及び到達目標	英語の文法や語法において、これまでの学習の中で十分に理解できなかった項目を、各学生がテキストの説明や例文を熟読し、よく理解すること。
授業計画	第1回 授業についてのガイダンス、および「英文誤り発見クイズ」 第2～15回 自分の苦手とする項目、または興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
授業概要	英語学習において、たとえば、仮定法がよく理解できない、分詞構文が苦手という方が多いのではないのでしょうか。自分の苦手とする項目、または興味ある項目をテキストから自分で選び、例文をプリントして、授業の中で説明してもらいます。以下の文にはそれぞれ誤りがあります。どこが誤りかわかりますか。下記のテキストではそれぞれの誤りについて、わかりやすく説明がなされています。 1 This is the first time I' m here. 2 I have told you all what I know. 3 Can you mend this until Tuesday? 4 Most of people agree with me.
テキスト	Michael Swan著 Practical English Usage, New Edition, オックスフォード大学出版局 2005年
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	上記のテキストは英語の個々の語法についての疑問を解決するのに役立つ本です。英文科の学生には是非持って欲しい本です。予習をして、質問を準備して授業に参加すること。
評価方法	主体的な授業参加50点（出席2/3以上、1回欠席4点減点、受講受理期間も出席を取る）、プリントを提出して説明する50点。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
松井 真人			

授業のテーマ及び到達目標	英語をはじめとする人間の言語の構造、使用、獲得、起源などについての理解を深めること。英語で書かれた専門的な内容の文章が読めること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Why learn about language? / You' re a linguist? How many languages do you speak?	
	第3回	How many languages are there in the world? / What' s the difference between dialects and languages?	
	第4回	What was the original language? / Do all languages come from the same source?	
	第5回	What language did Adam and Eve speak? / Do languages have to change?	
	第6回	What are lingua francas? / Isn' t Pidgin English just bad English?	
	第7回	How many kinds of writing systems are there? / Where did writing come from?	
	第8回	Where does grammar come from? / Do all languages have the same grammar?	
	第9回	How do babies learn their mother tongue? / Do animals use language?	
	第10回	How does the brain cope with multiple languages? / Does our language influence the way we think?	
	第11回	What' s the right way to put words together? / Is British English the best English?	
	第12回	Why do people fight over language? / What does it mean to be bilingual?	
	第13回	How many languages can a person learn? / What is 'speaking in tongues' ?	
	第14回	What happens if you are raised without language? / Do Deaf people everywhere use the same sign language?	
	第15回	Why do languages die? / Can a threatened language be saved?	
	第16回	How are the sounds of language made? / Why do American Southerners talk that way?	
	第17回	What causes foreign accents? / Can monolingualism be cured?	
	第18回	What does it take to learn a language well? / How have our ideas about language learning changed through the years?	
	第19回	Why study languages abroad? / Is elementary school too early to teach foreign languages?	
	第20回	Can computers teach languages faster and better? / What' s the language of the United States?	
	第21回	Is there a language crisis in the United States? / What' s the future of Spanish in the United States?	
	第22回	What is Cajun and where did it come from? / Did German almost become the language of the United States?	

	<p>第23回 What' s Gullah? / Are dialects dying?</p> <p>第24回 Can you make a living loving languages? / How are dictionaries made?</p> <p>第25回 Why do we need translators if we have dictionaries? / How good is machine translation?</p> <p>第26回 Can you use language to solve crimes? / How can you keep languages in a museum?</p> <p>第27回 Where did English come from? / How many Native American languages are there?</p> <p>第28回 Is Latin really dead? / Who speaks Italian?</p> <p>第29回 How different are Spanish and Portuguese? / Should we be studying Russian?</p> <p>第30回 What's exciting about Icelandic? / What's the difference between Hebrew and Yiddish?</p>
授業概要	<p>言語に関する英文エッセイを読んでいく。毎回、当番の受講生がエッセイの内容の要約を発表し、担当教員が解説や補足説明を加える。最後に内容について全員で議論する。毎回、1つか2つのエッセイを読む予定である。</p>
テキスト	<p>E. M. Rickerson and Barry Hilton (eds.) The 5-Minute Linguist: Bite-sized Essays on Language and Languages. Second Edition. Equinox Publishing. 2,283円 (税込 洋書なので購入する書店やその時々々の為替レートによって変動する)</p>
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<p>できるだけ発言しやすい雰囲気を作りたいと思う。受講生の皆さんは授業の前にテキストをよく読み、わからない点は遠慮なく質問してほしい。</p>
評価方法	<p>授業への参加度30%、テキストの要約発表の充実度30%、学年末レポート40%</p>
参考文献	<p>授業中に適宜資料を配布する。</p>
備考	

講義科目名称：英語学演習Ⅲ（21130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語音声学、形態論、統語論について知識を深めること。 2. 複雑な英文の構造を把握しその内容を理解する力をつけること。
授業計画	第1回 はじめに 第2～3回 Why Language? 第4～5回 How Did Speech Begin? 第6～7回 Could We Get Along Without Speech? 第8～9回 What is Language Made Up Of? 第10～11回 How Language Grows 第12～13回 Languages Come in Families 第14～15回 The Language of Europe
授業概要	英語学基礎演習Ⅲの続きとなります。継続受講者でなくても理解できる内容です。英語という言葉客観的に分析するのが英語学です。具体的には英語音声学と形態論そして統語論についての理解を深めます。毎回、1人1行ごとの輪読をして、英語を正確に理解する訓練をします。
テキスト	“All About Language” by Mario Pei. (成美堂) 1,200円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキストをよく読み、何がポイントかを把握して簡潔に説明する練習です。
評価方法	レポート課題
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学入門 I (21210)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
松井 真人			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	現代言語学の枠組みで、英語および言語一般の特徴（特に意味とコミュニケーションの側面）を理解すること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	動物のコミュニケーションの特徴	
	第3回	人間のことばの特徴	
	第4回	言語研究の対象・言語研究の分野（音韻論・統語論・意味論など）	
	第5回	言語研究の分野（語用論・社会言語学など）・言語資料の収集・言語研究の方法	
	第6回	意味論の研究対象としての意味・ことばの意味は指示対象であるとする説	
	第7回	語の意味は他の語との関係により決まるとする説	
	第8回	ことばの意味は認識の産物とする説	
	第9回	いろいろな意味関係	
	第10回	フレームに基づく意味関係	
	第11回	メタファー	
	第12回	メトニミー	
	第13回	語用論とは？・協調の原理	
	第14回	会話の含意・協調の原理の問題点と限界	
	第15回	ポライトネス	
授業概要	講義形式で英語および人間の言語一般の特徴について解説する。言語学の分野としては、主に意味論、認知言語学、語用論を扱う。		
テキスト	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学<改訂版>』研究社 2,700円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生が英語学や言語学に対する関心を持つことができるように、多くの具体例を用いて分かりやすい解説を心がけたい。分からない点は遠慮なく質問してほしい。この授業の他に後期開講の英語学入門ⅡとⅢを受講することによって、英語学全般を学ぶことができるので、それらの授業も併せて受講することをお勧めする。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

講義科目名称：英語学入門Ⅱ（21220）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
横山 利夫			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	<p>① 下記のテキスト①について：1500年前までヨーロッパ辺境の一地方語にすぎなかった英語が世界各地に波及し、今日では地球人口の5割以上が何らかの形で英語に関わりを持っているといわれている。その英語がどのような発達過程を経て現在の姿になったのかを理解する。</p> <p>② 下記のテキスト②について：文ができるしくみ、文の内部構造を扱った章について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 テキスト① Introduction</p> <p>第2回 Indo-European</p> <p>第3回 Indo-European</p> <p>第4回 Britain Before the Coming of the Anglo-Saxons, The Coming of the Anglo-Saxons</p> <p>第5回 The Coming of the Anglo-Saxons, Old English</p> <p>第6回 Old English, The Scandinavian Invasions</p> <p>第7回 Norman Conquest</p> <p>第8回 Middle English</p> <p>第9回 Middle English, Early Modern English</p> <p>第10回 Early Modern English</p> <p>第11回 Modern English</p> <p>第12回 テキスト② 第11章 文ができるしくみ</p> <p>第13回 第11章 文ができるしくみ</p> <p>第14回 第12章 文の内部構造</p> <p>第15回 第12章 文の内部構造 テキスト①については、受講生が順番にテキストの内容を要約し、担当者が解説する。11回 テキスト②については担当者が説明する。4回</p>
授業概要	<p>テキスト①については、プリントも使用しながら、内容理解に重点を置いた指導をする。なお、講義ではビデオ教材も利用する。テキスト②については、文ができるしくみ、および、文の内部構造について詳しく説明する。</p>
テキスト	<p>①Gary Buck 著 The History of the English Language in Simplified English（英潮社1996年）</p> <p>②長谷川瑞穂 編著 『はじめての英語学（改訂版）』（研究社 2014年）2500円</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>毎回、テキスト（やさしい英語で書かれている）をよく読んでから授業に臨んでください。イギリス史について少し理解しているほうがよい。質問の時間を設けるのでわからないところ質問してください。</p>
評価方法	<p>試験2回(70点)、主体的な授業参加30点(2/3以上の出席、1回欠席5点減点、受講受理期間も出欠を取る。)</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学入門Ⅲ（21230）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
北山 長貴			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語学の概要と形態論、社会言語学、言語習得理論について基本的な概念を理解すること。 2. 英語音声学について理解を深めること。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 英語の音声：母音</p> <p>第3回 英語の音声：子音</p> <p>第4回 音節、強勢、イントネーション</p> <p>第5回 音素とは</p> <p>第6回 音の変化：同化</p> <p>第7回 形態論「単語ができる仕組み」（第10章）</p> <p>第8回 接辞：接頭辞と接尾辞</p> <p>第9回 英語の語源</p> <p>第10回 語形成</p> <p>第11回 社会言語学：「ことばと社会」（第23章）</p> <p>第12回 変種とは</p> <p>第13回 ピジンとクリオール</p> <p>第14回 言語習得：「日本の英語教育と教授法」（第25章）</p> <p>第15回 第一言語習得</p>
授業概要	英語音声学、形態論、社会言語学、言語習得を概論します。英語音声学については基本的な母音・子音の体系を踏まえ音の変化を中心に概論します。必要に応じて日本語の例についても紹介します。学習内容を深めるためプリントを使い応用練習もします。形態論、社会言語学、言語習得理論については授業前に授業計画に記載してあるテキストの該当する章を必ず読んでおくこと。
テキスト	長谷川瑞穂 編『はじめての英語学』（研究社）2,625円（英語学入門Ⅰ～Ⅲ共通テキスト）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英語学を今後も研究する学生は英語学入門ⅠとⅡを受講することが望ましい。 教職を希望する学生は1年生で受講することが望ましい。
評価方法	授業への参加度（50%）、期末筆記試験（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学講読（21240）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語学を研究するために必要な基本分野の概要を理解すること。 2. 多くの英文を一度に読み、英文の内容把握が的確にできるようになること。
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Semantic properties</p> <p>第3回 Ambiguity</p> <p>第4回 Metaphor and Poem</p> <p>第5回 Semantic Change</p> <p>第6回 Stylistics</p> <p>第7回 Speech and writing</p> <p>第8回 Speech acts and pragmatics</p> <p>第9回 Aspects of dialect</p> <p>第10回 Language and sexism</p> <p>第11回 New word formation</p> <p>第12回 Child language acquisition</p> <p>第13回 Animals' language capacity</p> <p>第14回 General review</p> <p>第15回 What is language?</p>
授業概要	英語学を今後も研究したい学生向けの授業です。 英語で書かれたテキストを精読して英語学の基本事項を学びます。1回の授業で1ユニットを輪読します。 プリントを使い内容理解を深めるようにします。
テキスト	“Language as Human Essence” by Victoria A. Fromkin 三修社（1300円）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・予習しての出席が前提の授業です。 ・必ず教室に辞書を持ってきてください。 ・専門的な内容が含まれていますが、なるべく理解しやすい様に説明します。
評価方法	・レポート提出
参考文献	
備考	

講義科目名称：西洋史（21330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山崎 彰			

授業のテーマ及び到達目標	1. ヨーロッパの複数の国の歴史を学ぶことで、ヨーロッパ史について多面的な関心を深めることができるようになる。 2. 授業で扱った国の個性が長い歴史の経過から形成されたことを理解し、適切に説明することができるようになる。
授業計画	<p>第1回 全体の課題</p> <p>第2回 イタリア古代と中世</p> <p>第3回 ルネサンスと近代イタリア</p> <p>第4回 中世フランス</p> <p>第5回 近世フランス</p> <p>第6回 フランス革命と近代フランス</p> <p>第7回 ブリテン島諸地域の形成</p> <p>第8回 連合王国の形成</p> <p>第9回 イギリス植民地帝国</p> <p>第10回 スイス盟約者団</p> <p>第11回 近代スイス連邦国家</p> <p>第12回 中世ドイツ</p> <p>第13回 近世ドイツ</p> <p>第14回 現代ドイツ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	ヨーロッパの多様な国家を互いに比較し、それぞれの特徴を明確にする。この特徴が中世、場合によっては古代以来、長い時間をかけて形成してきたことを明らかにし、これによってヨーロッパについてのイメージを豊かにする。
テキスト	プリント配付
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ヨーロッパに関する本（歴史書に限らず）をできるだけ多く読んでほしい。
評価方法	授業への参加度（40%）、期末の理解度確認調査（60%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本文化論（21340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
宮田 直樹			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	1. 江戸時代の文化が、現代のわたしたちの生活にもつながっていることを理解する。 2. 日本の文化財について、具体的な文化財の事例から説明することができる。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 日本文化・・・「日本」と「文化」？</p> <p>第3回 なぜ歴史を学ぶのか？</p> <p>第4回 江戸時代の文化（1）江戸時代と古文書—古文書を読んでみる—</p> <p>第5回 江戸時代の文化（2）江戸時代と読み書き—なぜ読み書きできるのか？—</p> <p>第6回 江戸時代の文化（3）江戸時代の住まいと暮らし</p> <p>第7回 江戸時代の文化（4）江戸時代のランキング—見立番付の世界—</p> <p>第8回 江戸時代の文化（5）江戸時代の都市とファッション（服飾）・流行</p> <p>第9回 文化財とは？</p> <p>第10回 文化財保護の制度と米沢市の文化財行政</p> <p>第11回 米沢市の文化財（1）米沢藩主上杉家とゆかりの文化財</p> <p>第12回 米沢市の文化財（2）史跡館山城跡の歴史と遺構</p> <p>第13回 米沢市の文化財（3）史跡上杉治憲敬師郊迎跡と文化財の保存修理</p> <p>第14回 文化財の危機？—文化財を未来へ伝えるために—</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	はじめにオリエンテーリング（1～2回）、その後は2部構成とし、第1部は江戸時代の文化について（3～8回）、第2部は文化財について（9～14回）、みなさんが学んでいる山形県・米沢市の事例を中心にスライド等を中心に紹介し、一緒に考えていきます。
テキスト	テキストは使用しません。毎回の授業時にレジュメ・資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わたしたちの現代の生活は、歴史的な積み重ねの上に成り立っているものです。日本の文化について、歴史的な視野に立って江戸時代と文化財の身近な事例から、一緒に考えていきます。
評価方法	毎回の授業時に提出してもらった感想・質問のミニペーパー（60%）と、期末のレポート（40%）で評価します。
参考文献	参考文献等は適宜授業の中でご紹介します。
備考	

講義科目名称：異文化理解（21351）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn about the different cultures of the world, and for students to think about the role that culture plays in their life.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Language and Culture	
	第3回	Language and Culture Audiovisual	
	第4回	Language and Culture Audiovisual Discussion	
	第5回	Food and Culture	
	第6回	Food and Culture Audiovisual	
	第7回	Food and Culture Audiovisual Discussion	
	第8回	Religion and Culture	
	第9回	Religion and Culture Audiovisual	
	第10回	Religion and Culture Audiovisual Discussion	
	第11回	Celebrations and Culture	
	第12回	Celebrations and Culture Audiovisual	
	第13回	Celebrations and Culture Audiovisual Discussion	
	第14回	Culture Discussion Groups	
	第15回	Final Presentation	
授業概要	The class is divided into 4 sections that look at different aspects of culture: 1. Language 2. Food 3. Religion 4 Festivals and Celebrations. Students will write papers about that aspect of culture for different countries. Movies from different countries will be shown to help gain a broader cultural understanding.		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will make use of the library and internet to do research for their papers.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Learning about different cultures is fascinating. I hope students will enjoy this class.		
評価方法	50% class attendance and participation. 50% research papers		
参考文献			
備考			

講義科目名称：異文化コミュニケーション (21370)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。		
授業計画	第1回	異文化間コミュニケーション論の誕生 また、並行して隔週で、副教材の事例1から事例15までを考察する。	
	第2回	異文化間コミュニケーション論の可能性	
	第3回	基本概念の説明と応用（文化とは）	
	第4回	基本概念の説明と応用（常識とは）	
	第5回	基本概念の説明と応用（コミュニケーションの時間とは）	
	第6回	基本概念の説明と応用（コミュニケーション空間とは）	
	第7回	基本概念の説明と応用（学習の形態差とは）	
	第8回	基本概念の説明と応用（認識の形態差とは）	
	第9回	基本概念の説明と応用（コミュニケーションの形態とは）	
	第10回	近代ヨーロッパ人の航海活動に伴う異文化交流の歴史	
	第11回	近代ヨーロッパ人の航海活動に伴う異文化・異民族間問題	
	第12回	北アメリカの毛皮交易をめぐるヨーロッパ系住民と先住民の現代までの交流	
	第13回	カナダでの対先住民政策の比較例として日本社会のアイヌ民族待遇を考える	
	第14回	アフリカの民族紛争に関わる異文化間の問題	
	第15回	国際化する日本社会での異文化間コミュニケーションの事例	
授業概要	異文化間コミュニケーション論の誕生から現在まで発達までの理論と応用例の説明、身近な異文化間の事例や世界で起こっている異文化間問題に対するこの理論の応用		
テキスト	エドワード・T・ホール著「沈黙のことば」（南雲堂1966年）、タカオアベ『ピンときた!納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社 2011年）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	基礎理論を着実に理解させた後の期間後半になってから事例研究を行う。各自で関心があるレポートの題目を平素から捜して用意することを期待する。		
評価方法	平常の発表課題（30%）、提出課題（20%）と試験（50%）		
参考文献	『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣2007年）		
備考			

講義科目名称：英米文化論（21320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。 2. 英米文化を学ぶ上で重要な概念についての理解を深める。 3. 様々な文化表象を手がかりに、英語圏の文化を読み解く方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスー「文化」とは何か</p> <p>第2回 英語</p> <p>第3回 キリスト教</p> <p>第4回 民主主義</p> <p>第5回 資本主義／「個人」の誕生</p> <p>第6回 国民国家／植民地主義</p> <p>第7回 階級／ジェンダー</p> <p>第8回 絵画</p> <p>第9回 建築</p> <p>第10回 〈人種〉の表象</p> <p>第11回 音楽</p> <p>第12回 ファッション</p> <p>第13回 映画（1）ー映画の構造分析</p> <p>第14回 映画（2）ー映画にみる「文化」</p> <p>第15回 まとめーレポートの書き方について</p>
授業概要	前半（第1回～第7回）は、英米文化を読み解くためのキーワード（基本概念）を中心に考察し、後半（第8回～第15回）は、絵画、音楽、建築、ファッション、映画等の具体的な表象を分析しながら、イギリスとアメリカの文化の構造を読み解いていきます。また、毎回リアクション・ペーパーを利用し、授業の質問に答えます。
テキスト	参考資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の関心を引くように、身近な事例を取り入れながら講義を進めていきたいと思います。 ・扱うキーワードを辞書やインターネットで調べてから授業に臨むと理解が深まります。 ・受講生の理解・関心に応じて、進度・内容は変わることがあります。
評価方法	レポート（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考書を適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：異文化理解基礎演習（21380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
畑田 秀将			

授業のテーマ及び到達目標	アメリカの政治や社会についてさまざまな視点から考察する 1 欧米の政治・経済、社会・法律の社会システムについて理解し、わが国と比較考察できる。 2 近現代の欧米の民主主義と政治思想について、私見を述べることができる。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 アメリカ社会と法律</p> <p>第3回 冤罪事件と裁判の原則</p> <p>第4回 アメリカの陪審制度と日本の裁判員制度</p> <p>第5回 冤罪事件の社会的背景</p> <p>第6回 アメリカ社会の二分化(安楽死)</p> <p>第7回 安楽死問題の社会的背景</p> <p>第8回 アメリカ社会の二分化(臓器移植)</p> <p>第9回 臓器移植問題と社会的背景</p> <p>第10回 20世紀のアメリカ政治文化</p> <p>第11回 戦争とプロパガンダ・焚書</p> <p>第12回 冷戦</p> <p>第13回 民族紛争とアイデンティティ(中東戦争)</p> <p>第14回 民族紛争とアイデンティティ(ベトナム戦争)</p> <p>第15回 補足・まとめ・振り返り</p>
授業概要	本授業では、アメリカの近現代史から政治・経済、社会・法律について、毎回テーマを設定し、全員でテキストを輪読・発表を行う。理解を深めるために映像も用いて解説を行いたい。
テキスト	山口真由『リベラルという病』新潮社、2017年。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	テキストは、発表者以外の者もきちんと読み、質疑応答ができるよう準備を欠かさないこと。
評価方法	課題・発表50%、事前事後調査、質疑応答など50%
参考文献	デジタル資料 (DVD)NHK『映像の世紀』NHKエンタープライズ、2000年。
備考	

講義科目名称：異文化コミュニケーション基礎演習(21381)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。		
授業計画	第1回	PFC導入、ハルヤマダ導入、『英語コミ』導入、TOEIC問題集(毎回1ページ) PFC教材紹介、DGDR教材紹介、『英語コミ』教材紹介、主教材PFCと副教材DGDR、『英語コミ』、他TOEICを毎回1ページずつ毎回の時間を三等分し、均等に定める。 (省略語) DGDR: ハルヤマダ『喋るアメリカ人聴く日本人』 PFC: Polite Fictions in Collision 『英語コミ』：ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション	
	第2回	PFC、1章(英語圏の人間対等性)問題考察、『英語コミ』、事例13「家に招待される」	
	第3回	PFC1章音読確認、DGDR ch. 1-1(即ち1章問題1、以下同様)自立と甘え	
	第4回	DGDR Ch. 1-2, 1-3 論ず方法、自己独立性、『英語コミ』事例14「家に招待する」	
	第5回	PFC 2章(親近性)問題考察、『英語コミ』事例15 単純状況コミュニケーション	
	第6回	PFC2章音読、DGDR 2-4 二重否定の禁止	
	第7回	DGDR2-5 neutralな人間関係、『英語コミ』事例16 複雑状況コミュニケーション	
	第8回	PFC 3章(くつろいだ関係)問題考察、『英語コミ』事例17 謝罪の違い	
	第9回	PFC 3章音読、DGDR 3-1 呼称の比較	
	第10回	DGDR 3-2 尊敬語・謙譲語の欠如、『英語コミ』事例18 謝罪の誤解	
	第11回	PFC 4章(独立と共存)問題考察、『英語コミ』事例19 謝罪の転用	
	第12回	PFC 4章音読、DGDR 3-3挨拶の仕組み	
	第13回	DGDR 4-4 作り上げるか、当てはめるかの差、『英語コミ』事例20 名前で呼ぶか関係で呼ぶか	
	第14回	PFC 5章(個と集団の意識差)『英語コミ』事例21 「よろしくお願ひします」の文化	
	第15回	PFC 5章音読	
授業概要	異文化間コミュニケーション論・社会言語学の洋書主教材で学ぶ時間、和書副教材で学ぶ時間、社会言語学ワークブックの時間、TOEIC(文法・読解)とTOEFLの練習時間を設ける。 異文化間コミュニケーション論を駆使して英語圏の社会言語文化の理解を深める練習をする。日本で普及していない最新の言語習得方法に基づき和訳・英訳を超えて英語圏で友人ができるようなコミュニケーターを養成する訓練をする。		
テキスト	タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集2』(国際ビジネスコミュニケーション協会2016年)、ハルヤマダ『喋るアメリカ人聴く日本人』(成甲書房 2003年)、Nancy Sakamoto, Polite Fictions in Collision (Kinseido 2004)		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	留学希望者は実務的な個別準備指導をする。期末課題としては、各自が言語学や英語などに関連した研究書の書評[3-5ページ]又は口頭発表のどちらかが課せられる。英語論文の添削指導も可能。		
評価方法	平常の発表課題(30%)、提出課題(50%)と小試験(20%)		
参考文献			
備考			

講義科目名称：異文化理解演習（21390）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
畑田 秀将			

授業のテーマ及び到達目標	図書館文化の背景にある政治・経済・法律・社会について、日米の比較を通して考察を深める ・アメリカの政治・経済・法律・社会について、現代の諸問題と関連付けて説明することができる ・欧米の図書館・情報文化を取り巻く背景知識を理解した上で、民主主義の意義と図書館の関係について、私見を述べることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	近代国家の刑事裁判	
	第3回	冤罪事件	
	第4回	推定無罪の原則	
	第5回	自白と可視化	
	第6回	罪刑法定主義	
	第7回	世界の司法制度	
	第8回	陪審員制度と裁判員制度	
	第9回	刑事事件とマイノリティー	
	第10回	死刑存廃問題	
	第11回	安楽死と尊厳死	
	第12回	臓器移植制度	
	第13回	大衆と民主主義	
	第14回	マキャヴェッリの大衆観	
	第15回	前半部の振り返り	
	第16回	欧米の政治文化	
	第17回	アメリカの保守とリベラル	
	第18回	近代の政治思想	
	第19回	日本の政治文化	
	第20回	日本の保守とリベラル	
	第21回	戦争とプロパガンダ・焚書	
	第22回	民族紛争とアイデンティティ(ドイツ)	
	第23回	民族紛争とアイデンティティ(ユーゴ)	
	第24回	図書館と民族浄化	

	第25回	表現の自由とマイノリティー
	第26回	ハンディキャップと図書館文化
	第27回	多文化サービスの実際
	第28回	ソーシャルライブラリー
	第29回	パブリックライブラリー
	第30回	補足・まとめ・振り返り
授業概要	イデオロギー、表現の自由、マイノリティーなど社会を二分化する問題をメインテーマに図書館と絡めながら議論する。カレントな情報とメインテーマの知識を関連付けて捉える力を身に付けてほしいので、毎回、授業の最初に、新聞・雑誌の時事的記事を数名が報告、その後、上記のメインテーマに則った課題について、担当者1名が報告するスタイルをとりたい。	
テキスト	受講者のテーマに則ったテキストを選択してもらうので、履修者確定後に相談の上、決定したい。主に新書（1000円以内）を中心とする。新聞記事や雑誌記事のコピーが必要となる（担当1回に10～20円程度）。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	図書館の二次資料も活用できるようアドバイスする。夏休みなどを利用し、実際の図書館にも訪問したい。	
評価方法	毎時の課題・発表・発言100%	
参考文献		
備考		

講義科目名称：異文化コミュニケーション演習（21391）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。		
授業計画	第1回	PFC 4章音読 You and I are Independent、そのほかTOEIC問題集10問ずつ（以下毎回同様）	
	第2回	PFC5章People as Individuals, Mistakes p. 15	
	第3回	PFC5章音読, 英語コミ No. 21 「どうぞよろしくお願いします」	
	第4回	DGDR ch. 4-3, 4-4（即ち第4章問題3、問題4、以下同様）Business is Business, Business is Family; Mistakes p. 16	
	第5回	DGDR ch. 4-5 Individual Choice, Group Ensemble	
	第6回	PFC6章 Being Original; Mistakes p. 17	
	第7回	PFC6章音読, 英語コミ No. 22 「何歳ですか？お子さんは？（1）」	
	第8回	DGDR ch. 4-6, 5-1 Team Stars, Borrowed Individuals; Mistakes p. 18	
	第9回	DGDR ch. 5-2, 5-3 Talk about Talk / Silent Shifters	
	第10回	PFC7章 Questions, Questions!; Mistakes p. 19	
	第11回	PFC7章音読, 英語コミ No. 23 「何歳ですか？お子さんは？（2）」	
	第12回	DGDR ch. 6-4, 6-5 It's Not Our Talk, It's an Example /You Don't Know What You're Talking About; Mistakes p. 20	
	第13回	DGDR ch. 7-1, 7-2 The Rhythm of Talk	
	第14回	PFC8章 Answer to the Point!; Mistakes p. 21	
	第15回	PFC8章音読, 英語コミ No. 24 「子供をしかる」	
	第16回	DGDR ch. 7-3 Talking Turns; The Ball Machine of Conversation; Mistakes p. 22	
	第17回	DGDR ch. 8-4, 8-5 The Truths about Teasing, Praising and Repeating	
	第18回	PFC9章Conversational Ballgames, 個別研究口頭発表1	
	第19回	PFC9章音読, 英語コミ No. 25 「飲食の誘いを断る」, 個別研究口頭発表2	
	第20回	DGDR ch. 8-6 Repeated and Parallel Truths, 個別研究口頭発表3	
	第21回	DGDR ch. 9-1, 9-2 Role Models: Working Man, Nurturing Mother, 個別研究口頭発表4	
	第22回	PFC10章Don't Apologize!	
	第23回	PFC10章音読, 英語コミ No. 26 「飲食に誘う」	
	第24回	DGDR ch. 9-3 Independent American Decision Makers, 個別研究口頭発表5	

	<p>第25回 DGDR ch. 10-4, 10-5 Becoming American, Staying Japanese, 個別研究口頭発表6</p> <p>第26回 PFC11章Nobody Told Me!</p> <p>第27回 PFC11章音読, 英語コミ No. 27「がんばって、ごころうさま」</p> <p>第28回 DGDR ch. 10-6 Mirrors, Mirrors, 英語コミ No. 28「苦情を言う」</p> <p>第29回 PFCまとめ, 英語コミ No. 29「どれでも結構です」</p> <p>第30回 DGDRまとめ, 英語コミ No. 30「客に挨拶をする」</p>
授業概要	<p>異文化間コミュニケーション論を駆使して英語圏の社会言語文化の理解を深める練習をする。日本で普及していない最新の言語習得方法に基づいて、和訳・英訳を超えて英語圏で友人ができるような真のコミュニケーターを養成する訓練をする。主教材DGDR、副教材、他TOEIC問題集を毎回1ページずつ毎回の時間を下記内容で三等分し、均等にあてる。 (省略語) DGDR: Different Games, Different Rules PFC: Polite Fictions in Collision 『英語コミ』:ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション Mistakes: Takao Abe, Common Mistakes in English</p>
テキスト	<p>タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)、『TOEICテスト公式問題集』(IIBC 2016年)、Haru Yamada, Different Games, Different Rules (Oxford UP, 1997)、Takao Abe, Common Mistakes in English (非出版本)</p>
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	<p>平常の発表課題(30%)、提出課題(20%)と試験(50%)</p>
参考文献	
備考	